

# 活動年鑑 5

2009年6月～2010年5月



社団法人日本技術士会  
青年技術士交流実行委員会

# 目次

巻頭言	青年技術士交流実行委員会への期待！	1
	(社)日本技術士会 理事・研修委員会委員長 小林洋一	
2009年度活動報告		2
	青年技術士交流実行委員会	
寄稿	あなたならより良く変えることができます！	4
	(社)日本技術士会 原子力・放射線部会 部会長 林 克己	
寄稿	青年技術士交流実行委員会と社団法人中小企業診断協会東京支部 中央支会青年部の交流に深謝	5
	社団法人中小企業診断協会東京支部中央支会青年部部長 原 千津	
寄稿	士の心、を大切にする同志の皆さんへ	6
	財務省勤務、「行政技術士」志望 池田洋一郎	
例会活動報告		9
支部交流活動報告		31
国際交流活動報告		43
その他の活動		51
メンバー紹介		54

## 青年技術士交流実行委員会への期待！

社団法人日本技術士会  
理事 研修委員長 小林洋一

青年技術士交流実行委員会（以下“青年委員会”）は、1959年（昭和34年）7月に発足した青年技術士懇談会の伝統を受け継ぎ、自由闊達な気風のもと50年余りの歴史を歩んできました。

また、平成12年の技術士法の改正により、若手技術士のみならず、JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定教育課程の修了者や技術士一次試験合格者である修習技術者、技術士補も積極的に青年委員会の活動に参加している特色があります。

現在、全国には12万人を超えるJABEE課程の修了者がいます。平成21年度の技術士二次試験では、200名の修習技術者が挑戦し5名の合格者が生まれました。今後は修習技術者の実務経験年数が順次4年を越えていく経過も踏まえて、若手技術士の増加が大いに期待出来ます。そこで、青年委員会にはこれらの若手修習技術者に対するIPD（初期専門能力開発）の活動母体になってもらい、多くの若い技術士を誕生させる役割を担ってほしいと思っています。さらに若手技術士にとっても、青年委員会の様々な活動への積極的参加により、日本技術士会の活動活性化の源になることも期待しています。

日本技術士会は、平成16年には科学技術創造立国の実現を目指して「技術士ビジョン21」を制定し、技術士の基本要件や役割を明確に示しました。また、平成19年の「技術士プロフェッション宣言」により、技術士の行動原則と社会貢献を自らに課しました。その実現に向け、日本技術士会は支部、部会、常設委員会、実行委員会、グループなど様々な活動を鋭意進めてきました。

とりわけ青年委員会では、例会、支部交流、国際交流、IT活用、広報などの各グループが活発な活動を繰り広げています。その中では、テクノツーリズム（技術スポットの見学会）やビジネススキルアップなど青年委員会ならではの活動も挙げられます。まさに若いエネルギーが日本技術士会を支えていると言っても過言ではありません。今後も青年委員会の若い力を原動力に、日本技術士会として豊かな国創りを目指していきたいと思っています。

さらに、APEC圏を中心として技術士が果たす国際的な役割はますます重要になりつつあります。このような中、青年委員会では日韓親善サッカーやASEAN各国の若手エンジニアによる国際会議としてのYEAFFEOへの参加など、国際的な若手技術者同士の絆作りにも大きな役割を果たしています。

このように青年委員会は、国内外で若い力を存分に発揮し特色ある活動を継続することにより、そしてその積み重ねが日本技術士会にとって、とてつもなく大きな力となって、近い将来日本技術士会を飛躍的に発展させる原動力となることを期待しています。

以上

## 青年技術士交流実行委員会 2009 年度活動報告

### 1. 2009 年度活動報告

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員、委員補佐により構成されています。委員には各支部から推薦された支部委員も含まれます。

本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施しています。

2009 年度の主な活動を下記にまとめます。

#### 1. 特別例会

2010 年 4 月 24 日、青年技術士交流実行委員会主催『1・2 次試験合格歓迎会および青年技術士展』では「技術士のキャリア形成」をテーマに独立技術士と企業内技術士の講演の他、各部会の協力の元に参加者との直接対話型ブース出展を実施しました。

#### 2. 若手技術者の国際交流活動

- ・2009 年 10 月 7 日～10 日に韓国（インチョン）で開催された日韓技術士会議の青年分科会、サッカー親善試合に参加しました。
- ・2009 年 11 月 30 日～12 月 2 日にシンガポールで開催された ASEAN 技術者協会連合『YEAFFEO16』への参加の支援をしました。3 名の会員を派遣し、1 月の国際交流成果発表会で『YEAFFEO16』の参加報告会を行いました。
- ・2010 年 3 月 12 日から 14 日、香港工程師學會の若手技術者が 6 名来日し、日本技術士会への表敬訪問、テクニカル・カルチャーツアー、ディスカッション及びポスターセッション、ウェルカムパーティなどの交流を実施しました。

#### 3. 若手技術者向け研鑽事業

講演会・勉強会 4 回、テクノツーリズム 4 回、スポーツ交流含む交流会 5 回、国際交流成果発表会を実施しました。外部講師の招聘や部会・県技術士会の協力・後援等も得られました。

2009 年 11 月には修習技術者支援実行委員会の『修習技術者研修セミナー』にコーディネーターを派遣し、協力しました。2010 年 1 月の技術士第一次試験合格者歓迎会・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、パネルディスカッションを企画・開催しました。

#### 4. 各支部青年技術士組織との交流

本支部交流会議を2回開催するとともに、仙台市で開催された技術士全国大会において青年技術士本支部懇親会を実施しました。青年技術士交流会誌を作成および配布しました。

本支部交流会議での議論内容や、各支部にも協力いただき6月に実施したWEBアンケートは広報戦略特別委員会の有効な資料となっております。

#### 5. 優先適用の承認

2009年5月8日から施行されている『青年技術士交流実行委員会の運営に関わる優先規則の制定について』に、第3条として、「青年委員会委員の定数については、委員会規則第23条の規定にかかわらず、部会推薦委員は25名以内、支部推薦委員は各支部1名以内とする。」を追加し、2010年1月理事会にて承認を受けました。

#### 6. 委員会の運営・企画・管理および広報活動

上記の活動を企画・実施するため、毎月定例会議（運営委員会）を青年層の参加しやすい土日または平日夜に交互開催し、またskypeを利用した会議も活動への参画促進の一助となっております。サーバーを利用して会議・例会への出欠管理や意見交換を行い、また議事録・資料等をデータベースにて保存管理することで運営の利便性や継続性、活性化を図っております。

青年委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2009年度青年技術士交流実行委員会活動年鑑の制作並びに青年技術士交流実行委員会のホームページのリニューアル及び活動毎のブログを運営しております。また、2008年11月より支部に毎月配信しているニュースレターについて、2009年度より委員を通じ、各部会への配信も始めました。

その他、国際交流や活動紹介のポスターを作成し、活動報告書と共に合格者歓迎会等で展示をしております。これらのポスターは単なる活動の概要ではなく、各国青年技術者の写真の活用や、アバター（似顔絵イラスト）を利用したメンバー紹介など、人を前面に出したPRを行うことにより、交流の楽しさを通じて技術士会への敷居の低さを実感できるようにしました。

## あなたならより良く変えることができます！

(社)日本技術士会 原子力・放射線部会  
部会長 林 克己

青年委員会からは、昨年の「4月特別例会」に初めて原子力・放射線部会に声がかかり、合格者への部会活動の説明スペースを割り当てていただいた。その後、今年3月の「テクノツーリズム茨城」を後援し、「常陽」の見学、および高速増殖炉、高温ガス炉、核融合実験炉から大強度陽子加速器に関する講演会、終了後は「“たらし”を“ヘガシ”で食す」を一緒に楽しんだ。4月の「合格者歓迎会&2010 青年技術士展」はゆっくり参加者の相談にのれるよい設定であった。青年委員会の活動のほんの一部に参加しただけであるが、20年以上前を思い起こしながら若手に対する期待を述べたい。

20年以上前、私が技術士になって初めて部会講演を聴きに行ったときは、講演内容のレベルもだが、教職でない会員同士で「先生」と呼ぶ慣習も耐えられず、参加意義の見出せないサロンと感じ、その後日本技術士会にかなり距離を置く原因となっていた。それより社内や他社合同の技術士会の講演会は他分野技術のよい勉強になるし、広げたい学術技術は学会に所属したほうがよっぽど身につくので所属学会も十近くなった。

そのような感覚であったが、平成16年度に原子力・放射線部門の試験開始の話が出たときは、「チャンス」と感じた。しっかりした目的をもち目標を定めて組織的に実行する新しい組織を作るまたとない機会である。そのころには幸いにも技術士会も昔とは違っていた。「原子力・放射線の分野にも、技術士制度が世の役にたつ仕組みの具体化」「その実現に必要な技術士数の確保」「目的にかなった継続研鑽」を掲げ、力を合わせて5年の部会活動を行ってきた。理想に少しでも早く近づきたいが、私を含め部会幹事全員が現役企業内技術士であり、活動に時間が割けないのも青年委員会メンバーと同じ悩みと思われる。

「青年技術士は次の時代の部会や技術士会のキーメンバー」では遅すぎて何も変えられない。私の思いは30～40代が部会や委員会活動の中心、40～50代は技術士会全体活動の中心、60代以上でリタイアした方はサポート役に徹するかフリーの立場を存分に活用した社会への発信と貢献！である。そうなれば、青年委員会は自然消滅を迎え、代わりにシニア委員会が必要になる。日本原子力学会の中でもシニアネットワークは、ほれぼれする大活躍をされている。

こんな私の感覚は変ですか？もし共感されるなら部会幹事になってどんどん方針を議論し、新しい活動形態を提案、実行し牛耳ってください。どこの部会もそれを願っています。私は良いサポートができるようがんばります。

## 青年技術士交流実行委員会と 社団法人中小企業診断協会東京支部中央支会青年部の交流に深謝

社団法人中小企業診断協会東京支部  
中央支会青年部部長 原 千津

さる、3月27日（土）、中央支会事務所において中央支会青年部主催の勉強会を開催致しました。日本技術士会の方をお招きしての勉強会やセミナーなどが従来になかったため、青年部としては、初の試みでした。勉強会には、技術士との交流を望む方や、技術士の方から直接話を聞きたいという方が、青年部以外にも出席し、第一回目の勉強会を、盛会に終えることができました。ここに改めて感謝申し上げます。

我が青年部は、社団法人中小企業診断協会東京支部中央支会において、青年層向けにセミナーやレクリエーション等の活動を行っている若手を中心とする中小企業診断士です。青年技術士交流実行委員会との交流は、中小企業診断士の資格を持ち技術士会でお仕事をされている方のご紹介で、昨年12月に初めて青年技術士交流実行委員会の田村委員長とお会いした時からスタートしました。

それからこの勉強会の開催に至る間、青年技術士交流実行委員会の例会に出席させて頂く一方で、私達青年部主催の懇談会にご出席頂き、双方交流を少しずつ深めていくことができました。おかげで、交流を始めて3ヶ月という短い間に、勉強会という“形”で、資格はもとより、技術士として素晴らしい資質をお持ちの方々を診断士に紹介できる機会を持たれたことは大変誇らしいことでした。

当初より、『技術士』という資格と『中小企業診断士』という資格には幾つかの共通点があるとの共通認識がありました。名称独占資格での独占業務がなく、組織の中で一般企業勤務の方が一定の割合を占めていることや、青年層の割合が増してくる中でその活性化を模索している点などです。

しかしながら、全国組織での青年組織において、青年層による国際交流やレクリエーションの実施、日本技術士会に対して積極的な提案活動を実施している点など、その活動の幅と積極性は、我々診断士の活動に多くのヒントを与えて頂きました。

今後も同じ青年層の組織として、交流を深めたいと切に願っています。



## 士の心、を大切にする同志の皆さんへ

財務省勤務、「行政技術士」志望  
池田洋一郎

昨年末、日本技術士会青年部の月次例会でお話をする機会を頂いた。技術大国日本を支える皆さんとの交流に期待が膨らむ。他方、仕事柄、これまで技術士と接した機会は一度も無い。そもそも財務省職員と技術士との間に接点はあるのだろうか？いわゆる文系人間で物理や化学が大の苦手だった自分は、共通の話題を見出すことが出来るのだろうか？こんな不安からか、「国を創るとは」という大仰なテーマでの講演を、

「技術士とは何ですか？」

という何とも“拍子抜け”な質問から始めてしまった。しかも、

「皆さん、お隣同士で「技術士とは」についてディスカッションをして頂き、その結果を僕に教えて頂けませんか」

と間抜けな調子で続けたものだから、その場におられた皆さんは「講演者が話を始めたと思ったら、早速参加者に振るなんて・・・」と若干戸惑われたのではないか。しかし、寛容な皆さんは笑いながら（苦笑しながら）、グループで語り始め、色々と興味深い視点を私と共有してくれた。例えば印象的だったのは

「“技術者”と“技術士”とは違う」

と言うご意見。確かに挨拶を交わした方々から頂いた名刺に書かれた英語の肩書きを見ると、「Engineer」の前に「Professional」の枕詞。どうやらポイントは「Professional」という言葉にありそうだ。

専門知識を有する職業を意味する「Profession」の語源は、“vows taken upon entering a religious order（修道会に参加する際の誓い）”。つまり、技術「士」の世界に入るには何らかの宗教的「誓い」が必要ということなのだろうか。そう言えば別の方が、

「技術士は、単に専門知識を持つだけでなく、職業倫理とリーダーシップを持つことが求められる」

と語ってくれた。しかし、「職業倫理」と「リーダーシップ」という、目に見えなければ手で触れることもできないモノに自らを近付けるにはどうしたものか？この問いと向き合うに当たり、2008年10月、創立100周年を迎えたハーバード・ビジネス・スクールにおいてファウスト学長が送ったメッセージは示唆的だ。

\* \* \*

「ここに3人の石工（stonecutter）がいる。目の前の石を懸命に削っている彼らに、「なぜ石を削っているのか」と尋ねると、1人は「生活のため」、2人目は「国一番の石工になるため」、そして3人目は「大聖堂を作るため」と答える。

今回の世界的な金融危機は、2人目の石工 — 向上心に満ち、高度な技術を持ちながら、そのモチベーションは利己的で自らと社会の接点について意識せず、広いビジョンを持たない — そんな石工によって引き起こされたのではないか。これまで我が校の教育は、2番目の石工の育成に偏っていたのではないか。」

\* \* \*



この演説の前月、2008年9月には米国の歴史ある投資銀行、リーマン・ブラザーズが破綻。これを契機に「100年に一度」と言われる金融危機が発生し、米国のみならず世界中で膨大な職と富が失われた。そして、投資銀行や格付け会社で「金融技術者」として活躍していた多くのハーバード卒業生が、危機の原因となったサブ・プライムローン絡みの複雑な金融商品の組成や販売に深く関わっていたのだ。

誰しも、プロとして専門分野を持つと、どうしても物事を見る際の視点が偏ってくる。また、自分がその分野に一生懸命になるあまり、「これが世界で最も大切な分野なのだ！」「“俺たち”だけがその分野を担っているのだ」という気負いが出てきてしまう。これは視野狭窄を招き、せつかくの専門知識の使い道を誤る原因となるのではないか。専門知識を持つ者だからこそ、それを真に社会のために役立てるために、目の前にある自分の専門分野から少し距離をおいて、社会全体に目を向ける心の姿勢を保つことが必要なのではないか。

視点を広く持てば、「大聖堂」が石工の技術だけで創られるものでは決してなく、石の運び手、建物の設計者、そして何時の日か完成する大聖堂で祈りを捧げる人々など、多くの手で創り上げられるものであり、自分はその一端を担っているに過ぎない、という事が見えてくる。ファウスト学長は、ウォール街の「金融技術者」だけでなく、世界中でそれぞれの「石」と向き合う技術者達に向けて、そんな自省を促したのかもしれない。

こんなファウスト校長からのメッセージと、先ほど紹介した技術士の方の視点を併せると、技術者は、自らの専門技術と、それを求める社会との関係性を見出すことで、「技術士」になるのかもしれない。そして、自らが磨き上げた専門技術と、自らを育ててくれる社会とを結びつける絆が、「職業倫理」と呼ぶべきものなのかもしれない。

一方で、こうした自省は過度な自制にも転じ得る。石工は己を「組織や社会の中で交換可能なパーツに過ぎないのではないか」と捉え、向上心を萎ませてしまうかもしれない。この点について、母校ハーバード・ケネディスクールの卒業式で、2003年当時学長を務めていたジョセフ・ナイ教授が社会に旅立つ卒業生に送ったメッセージは多いに鼓舞される。

\* \* \*

「卒業していく君たち全員が、大統領や総理大臣になる訳ではない。しかし君たちが社会に復帰して、どんな小さな部分でも何らかの仕事を任されたとしたら、自分が任された世界の小さな部分をよくするよう努力してほしい。一人一人が任された部分が小さなものであっても、各々がその小さな部分をよりよく変える努力をすれば、世界全体を変革することができる。幸運を祈る。」

\* \* \*

人はしばしば、リーダーシップを、社長や首相等、何らかの地位と結びつけて考える。しかし、リーダーシップを発揮するのに高い地位に到達するまで待っている必要はないはずだ。なぜなら組織や社会で働く一人ひとりには「社長」が持たない専門知識や技術がある。己が磨いた知識や技術を、社会のニーズとの関係性の中で活かしていけば、きっと、一人ひとりがポジティブな変革の担い手となれる。リーダーシップとは、こんな志を持って自分自身を導いていく心の姿勢なのではないか。

翻って、我が国は「技術大国」として世界に知られている。World Economic Forum が毎

年公表している「世界競争力ランキング (The Global Competitiveness Index)」を見ると、我が国の競争力は世界で8位 (2009年) とされているが、鉄道インフラの水準 (2位)、技術者や科学者の水準 (2位)、イノベーション能力 (1位) 等、技術関係の項目は軒並みトップクラス。ちなみに、私が専門とする財政を見ると、「政府の無駄な支出 (99位)」「財政赤字 (120位)」と多いに足を引っ張っており、冷や汗をかくばかりだが、こと技術に関する限り、日本は世界に冠たる評価を得ているのだ。これは、過去数十年、技術士の先輩方がコツコツ磨いてきた「技」を活かして、日本という美しい「大聖堂」を作り上げるべく「職業倫理」と「リーダーシップ」を持って取り組んできたことの現れと言えるのではないだろうか。

現在、1億2千万人が暮らす我々が「大聖堂」は、あちこちに綻びやひび割れが出てきている。放置すれば崩壊は避けようがない。ちょっとした外的ショックがあれば明日にでも崩れてしまうかもしれない。しかし、自らの技を弛まず磨き続ける一方で、広く社会との関係性を求め、少しでもより良い変化を起こす担い手となろうという職業倫理とリーダーシップに満ちた「士の心」、即ち「志」を持った技術士の皆さんの存在は、「大聖堂」にこだまする悲観的な嘆きを打ち消すに十分な力を持っている。

無論、私も傍観を決め込むつもりはない。財務省職員も、財政・金融・経済分野に対する専門知識を磨き、職業倫理とリーダーシップを持ってそれを社会のために活かす「行政技術士」でなければならない。「行政技術士」も、日本全国で活躍する様々な分野の技術士と協働しながら、この大聖堂をもっと素晴らしい空間にする、そんな魅力的なプロジェクトに汗をかくことのできる存在なのだ。

「技術士と財務省職員・・・果たして共通の話題や接点が見出せるのか・・・」、そんな一抹の不安を持って臨んだ日本技術士会青年部の月次例会は、今後、様々なシーンで共汗するであろう同士との共感に満ちた時間だった。

#### (略歴)

池田 洋一郎 (いけだ・よういちろう)

1977年タイのバンコクに生まれ2歳で帰国、東京で育つ。1996年3月、私立城北高校を卒業。2001年3月、早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業し、同年4月、財務省に入省。主計局、広島国税局、金融庁総務企画局を経て2006年9月より米ハーバード大学ケネディスクールに留学。2008年6月同大学院にて公共政策学修士号 (Master in Public Policy) 取得・卒業。現在、財務省国際局にて課長補佐としてIMF、G7、G20などを担当、世界金融危機への対応や、危機後の国際通貨・金融システムの検討などに従事。

2009年2月には、留学時代の経験や学びを綴った書籍『ハーバード・ケネディスクールからのメッセージ ～世界を変えて見たい留学～』(英治出版)より上梓。

公務の傍ら、政府と市場、政府と地域社会とのコミュニケーション・ギャップを埋め官民協働の礎を創るべく、2002年4月に各省庁横断的な同期生とともに「官民協働ネットワーク Crossover21」(<http://crossover21.net/>)を立ち上げ、代表として様々なシンポジウムや異業種勉強会、討論会等を主催。

# 例会活動報告



## 例会グループ活動報告

例会グループリーダー 山中 淳至

### 1. メンバー

山中、根本、仁田、石井、鈴木、町野、横井、横田、畠田

### 2. 今期の活動

例会及びスポーツによる研鑽と交流の充実を目的に以下を実施した。

(1)例会の運営支援(マニュアルの作成)

全ての担当者がスムーズな例会運営を図れるようにマニュアルを作成。

(2)サッカー/フットサルによる技術者交流

ほぼ2ヶ月に1回のペースでサッカーまたはフットサルの練習会を開催。

(3)報告書及びアンケートの様式の見直し

年鑑等への互換性を考慮し、例会等の報告書様式を見直した。

また、技術士会会員のニーズに合った例会の開催及びサービスの向上を目的にアンケートの見直しを行った。

### 3. 成果

今期は例会などを9回、サッカー及びフットサルを5回開催した。

(1)例会など

開催日	開催名(テーマ)	人数	注
07月18日	新委員・委員補佐による業務発表	15	*1
08月02日	ビアパーティー	20	
09月05日	聴く・考える・話す 青年技術者の倫理例会	28	
12月18日	中間活動報告会及び池田洋一郎氏講演会 (国をつくるとは)	35	
01月24日	国際交流活動報告会	19	
01月30日	平成21年度 技術士第一次試験合格者歓迎会	約340	*2
03月12~14日	香港工程師学会交流会	53	*3
03月22日	大洗研究開発センター見学及び意見交換会	24	*4
04月24日	合格者歓迎会&青年技術士展	76	

\*1) 青年委員会メンバー限定で開催

\*2) 主催:修習技術者支援実行委員会 共催:青年技術士交流実行委員会

\*3) 香港工程師学会より6名来日。人数は1日目12名、2日目26名、3日目15名の延べ人数を表示。

\*4) 共催:JAEA 技術士会 後援:原子力・放射線部会

## (2) サッカー及びフットサル

例会や合格者歓迎会などで参加者にアナウンスすることにより、徐々に参加者も増加。北陸支部との合同練習の機会も増え、以前より交流が活発になった。

開催日	開催名	場所	人数	注
06月20日	フットサル交流会	大宮	9	
08月08日	サッカー練習会	新潟	40	*4
10月07日	日韓親善サッカー大会	韓国 仁川	約 20	
11月28日	サッカー練習会	前橋	19	*4
03月21日	サッカー練習会	東海村	15	*4

\*4) 北陸支部との合同開催

## (3) マニュアルの作成及び各様式の見直し

例会マニュアルは別館の内務・運営 マニュアルに掲載した。添付も含め適宜更新する予定である。報告書及びアンケートは運用を開始した。

## 4. 今後の展開

例会の運営をスムーズに行い、かつ参加者の満足度も高められるよう、年間スケジュールを策定し、準備期間に余裕を持たせ計画段階で十分に議論した上で、より質の高い例会を目指したいと考えている。

また、技術士会(事務局・会長・親委員会等)との意見交換を行い、技術士会への提言や技術士会外においても、他の団体との共催も視野に入れ、多様化した例会で青年委員会及び技術士会に関する対外的な情報発信や相互の関係強化などに発展させていきたい。

以上

行事名	北陸支部とのフットサル交流会
日時	2009年8月8日(土) 15:00~17:00
場所	京ヶ瀬屋内運動場 <a href="http://www.city.agano.niigata.jp/sssisetu/taiikukan.html">http://www.city.agano.niigata.jp/sssisetu/taiikukan.html</a> 懇親会: 同日 19:00~ 桃季(ホテル日航新潟)
講師、発表者	
担当者:(○印:リーダー)	松本
参加者数	40名

## 1. 背景・目的

北陸支部と関東地域の青年層によるサッカー(or フットサル)交流は、今回で3回目となる。第1回は2008年8月7日(土)に関東と北陸の中間地点である群馬県でフットサル交流が開催され、第2回は2009年4月26日(日)に関東(神奈川県)でサッカー交流が行われた。

## 2. 成果と所感

今回のフットサル交流には、関東から車2台で8名が参加し、北陸支部からの参加者約20名と一緒に楽しく交流することができた。

フットサルのゲームは、関東チームと北陸支部3チームの合計4チームの総当りで行われ、関東チームが2勝1分で優勝した。MVPには、関東チームにおいて攻守ともに活躍した竹市氏が選ばれた。

懇親会では日韓技術士会議実行委員会の中山委員長にもご参加いただき、北陸支部の方々と交流を深めることができた。関東からの参加者の大半がホテルに宿泊することになっていたため、夜が更けるまで北陸支部の方々と語り合うという貴重な機会を得ることができた。

今後もスポーツを通じた交流を継続し、若手技術者層の技術士会活動への積極的な参加を促進していくことで意見が一致し、新潟の地を後にした。

(文責: 松本正人)

行事名	北陸支部とのサッカー交流会
日時	2010年3月21日(日)
場所	JAEA 箕輪グラウンド(芝生)
講師、発表者	
担当者:(○印:リーダー)	○山中、山崎、藤井
参加者数	15名

## 1. 背景・目的

日韓技術士会議でのサッカー交流がきっかけで、若手技術者層との交流を深める例会となる。その後、関東の枠組みをこえて北陸支部との交流も最近では多くなり、若手技術士層のコミュニケーションの幅を広げる例会になってきている。北陸支部と関東地域の青年層によるサッカー(or フットサル)交流は、毎年数回行われている。今回のサッカー交流会は、2010年初めての交流会であり、テクノツーリズムと併せての例会となった。

## 2. 交流会内容

### 2.1. サッカー交流会

場所は、茨城県東海村にある「箕輪グラウンド(芝生)」で行った。年度末の忙しい中、北陸支部から4名、関東から11名が参加した。

北陸チーム(関東3名含む)、関東チームの2チームに分かれての試合では両チームとも積極的にプレーし、予定していた時間を過ぎてまでサッカーを楽しんだ。技術者として頭を使うことが多い参加者は、普段運動していないこともあるのか、試合を進めるうちに疲れが見え始めたが、参加者全員が楽しく取り組んでいた。試合では、得点チャンスが多くあり、ゴール前の攻防では大いに盛り上がった。サッカー交流会後、最終試合で記憶に残るゴールを決めた北陸支部の大塚氏、攻守ともに積極的に参加されていた山崎氏、得点につながるアシストをした田村委員長、末廣委員補佐を称えて、今回のサッカー交流会でのMVPとした。

### 2.2. 懇親会

サッカーでよく運動した後は、大洗の温泉で汗を流し、東海村の八角で懇親会を実施。サッカーで盛り上がった話や翌日に控えているテクノツーリズムの話を中心に、北陸の青年技術者と関東の青年技術者でコミュニケーションを深めた。また、懇親会では茨城県技術士会から伊東氏と今本氏、茨城在住の根本委員の参加もあり、翌日に控えているテクノツーリズムでの原子力技術について技術交流を事前に行うことができた。八角での懇親会の後も、引き続き宿泊先の一室に集まり、新潟の酒と茨城の酒を交えながら、参加者それぞれの技術に対する考えについて議論し、盛り上がった。今回の懇親会には、普段にはない異業種の視点で技術を語ることができた貴重な懇親会となった。

## 3. 成果と所感

- ・北陸支部と関東の参加者が参加しやすい中間的な位置であれば、多くの北陸支部の若手技術者層とも交流ができるため、今後も各支部との交流を深めるうえで検討していきたい。
- ・今回は、北陸支部と関東の参加者が参加しやすい中間的な位置ではなかったが、翌日のテクノツーリズムと併せて実施したため、若手技術者層の参加も多かった。

## 4. 今後の展開

サッカー交流のため若手技術者層の参加も多かった。今回のようにサッカー交流会の後テクノツーリズムと併せての例会となったため、このサッカー交流会をきっかけに若手技術者層が青年委員会や技術士会へ積極的に参加することを期待している。そのためにも、今後も積極的に交流会を行っていく。

行事名	新委員・委員補佐による業務発表
日時	2009年7月18日(土) 14:00~17:00
場所	葺手第二ビル A/B 会議室
講師、発表者	
担当者:(○印:リーダー)	
参加者数	スタッフ 15名

### 1. 活動内容

各自自由形式で持寄りの資料等を用い自己紹介を実施。

- 1) 松永 口頭による自己紹介、今後の抱負
  - 2) 山地 PPT 資格、特技について等
  - 3) 北條 PPT かまぼこ製造技術の紹介
  - 4) 平原 学会発表予稿 WORD 導電性高分子を用いた有機 EL 研究
  - 5) 末廣 PPT 自己紹介と抱負
  - 6) 三留 PPT ATP 合成酵素について
  - 7) 武井 PPT 業務経歴紹介
  - 8) 石井 PPT ネットワークの構築
  - 9) 鷹尾伏 PDF+写真 ヨルダンでの海外業務
  - 10) 横井 PPT 業務経歴紹介
  - 11) 根本 PPT 電線の環境対応
  - 12) 仁田 PPT 業務経歴と不動産総合監理業務
  - 13) 松本 PPT フロリダプロジェクト
  - 14) 田村 PPT 業務経歴+業務外活動
  - 15) 石関 PPT 新生児用医療機器開発 + サーバー利用方法説明
- 10min/人程度の目安を想定したが予想以上に時間オーバーし、後半は5min/人となった。

### 2. 成果と所感

新スタッフ相互の自己紹介のため、特に準備はせず場を設けた。

各人の専門的な業務内容紹介は興味を引くものが多く、予想以上に聞き応えのあるものであった。短時間で15名の紹介があり、業務内容の紹介の場合には時間的に厳しかった。

今回だけで終らせるには惜しい内容のものが多く、機会があれば後日人数を絞ってプレゼン大会をするのも一興かと感じた。

葺手会議室備付 PC 一部に画面切替の不具合、及び動作が遅く、初期の準備に少々手間取った。事前にデータを PC に移す作業が必要。

### 3. 今後の展開

多彩な経歴を持つスタッフが多数存在することが判明したため、今後の例会等を設定する際の参考となる。



行事名	ビアパーティ
日時	2009年8月2日(日) 19:00~21:00
場所	KEN'S CAFE TOKYO (東京都新宿区新宿 1-23-3 御苑コーポビアネーズ 1F)
講師、発表者	
担当者:(○印:リーダー)	
参加者数	20名

### 1. 目的

青年層の交流

### 2. 活動内容

青年委員会は、真夏の8月例会として、ビアパーティを開催している。これは、青年委員会30年の歴史を誇る交流会である。近年、技術士第二次試験終了後の夕方から開催し、受験生からの参加も可能に設定している。

今年の店は、おいしいイタリアンを選んだ。腕に覚えのあるシェフのカフェを貸切り、ビールやワイン、スパゲティ、ショコラなどを頂いた。

### 3. 成果と所感

参加者には、二次試験の受験を終えて駆けつけてくれた方がおられた。総合技術監理部門の問題やメリットが話題になり、取得未定の参加者が取得に向けた勉強法を質問していた。また、職場の同僚技術士を連れて来てくれた方もおられた。多彩な経歴の方々が集まり、会は盛り上がり、時間切れが惜しまれた。

### 4. 今後の展開

青年委員会のビアパーティは、30年以上の歴史がある恒例行事であるので、今後も継続して開催したい。

(文責: 横井弘文)

行事名	聴く・考える・話す 青年技術者の倫理例会
日時	2009年9月5日(土)13:30~16:00
場所	荳手第二ビル 5F A,B 会議室
講師、発表者	峯岸律子氏
担当者:(○印:リーダー)	
参加者数	28名

## 1. プログラム内容

### 1.1. 技術者倫理の基礎的な体系の説明と話題提供

技術者と倫理「公衆の安全・安心 最優先の原則」という題目にて、

- 1) 科学技術と倫理:科学技術の進歩は倫理問題と直面した
- 2) 技術者の使命:技術者倫理はなぜ必要か
- 3) 法と倫理の関係:法は社会の動きに対して後追いであり、法の弱点を倫理が補完する
- 4) 倫理的に考えるとは:ジレンマ問題、普遍的な視点、自律性
- 5) 組織風土:集団心理のメカニズムと集団愚考、逸脱、組織事故への発展
- 6) 倫理実行の方法:倫理テスト及び倫理的意思決定方法のための段階法等  
と順に説明があり、最後に演習の説明があった。

### 1.2. ワークショップ:倫理的思考を体験してみよう

農薬メーカーに勤務する技術者の立場で、倫理的問題事例に対してどのような行動をとるべきかをグループごとに考え、各グループでまとめを発表した。

グループにより対応策の切り口が異なる部分もあり、倫理的問題の解決には様々な視点で総合的に判断する必要があることを痛感した。峯岸先生からは、大学では数時間の講義で解決して行くカリキュラムを、今回は1時間程度の議論で結論をまとめなければならず、難しい課題事例に良く取り組まれているとの講評を頂いた。

### 事例概要

自分が開発しベストセラーとなりつつある新農薬と同じ成分を含有する農薬について、海外で健康被害の報告があり、一部の国では法規制が設けられたことを学会誌で知る。そこで上司に相談するも対応は必要ないと判断される。

### 全体ディスカッション(グループ発表内容)

- 1) 倫理的問題はどこにあるか
  - ・ グループ1
    - 技術者としてやるべき事(技術的検証等)を行っていない。上司との対応が不十分。
  - ・ グループ2
    - 健康被害の報告があるにもかかわらず、学会誌の結果を精査していない。
  - ・ グループ3
    - 海外で健康被害の報告があることを認識しておきながら、公益の確保より自社の利益を優先しようとしている。法規制の遅れ(法規制の対象でないことを)を理由にしている。
- 2) 技術者としてどのような行為をとるか
  - ・ グループ1
    - ・ 農薬の自社内での検証を実施する。
    - ・ 海外での健康被害報告事例等含め事実を公表する。
    - ・ 海外品の農薬を調査する(自社製品との比較を行う)。
    - ・ 上司の説得を行う。
  - ・ グループ2
    - ・ 科学的データを蓄積する。
    - ・ 学会誌の情報を精査する。
    - ・ 全員を集めて事実確認を行い、意思決定する。

- ・社内に対応する動きがない場合に、専門家に相談の上、問題のある場合には公的機関へ連絡する。
  - ・グループ3
    - ・農薬の販売停止を提案する。
    - ・上司を説得する+学会等で情報収集を行う。
    - ・上司を説得できない場合しかるべき段階を踏む(さらに上の上司を説得・情報交換・コンプライアンス制度・外部へ告発)。
- 3) とるべき行為の最終決定(グループの結論)
- ・グループ1
 

まずは「上司の説得を行った」上で「海外での健康被害報告事例等含め事実を公表」し、「農薬の自社内での検証を実施」「海外品の農薬を調査」を行い、最終結果を公表する。
  - ・グループ2
 

状況により以下の優先順位で取り組む。

    - ・「科学的データを蓄積する」
    - ・「上司や専門家を巻き込んで議論する」
    - ・「監督省庁に報告する」
  - ・グループ3
 

時間の経過とともに健康被害が拡大していく恐れがあるため、早めの対策を講じる。

### 1.3. 社会的責任について考察(グループディスカッション)

各グループのコーディネーターより提供される実際の企業での取り組み事例などを基に、企業などの果たすべき社会的責任や課題について考察を行った。

#### グループ1(コーディネーター:宮本 忠博)

- 1) 「三菱マテリアルの CSR(RoHS/REACH 対応)への取組」
  - ・サプライチェーンにおける社会・環境配慮の重要性について具体的事例に基づいて説明があった。(ソニーの欧州向け製品中にカドミウムが含有されていたため膨大な損失を被った事例から、製品素材まで含めて上流から取り組むことの重要性について)
  - ・化学製品は物質の種類が多く、実験の結果もばらつくことが多い。
  - ・他社のコア技術に関する情報は外部には公開されないため、その危険性などの特性をどのように調査するのかが課題である。
- 2) 東京都の中小企業向けの環境対策制度
  - ・エネルギー量の把握については報告する義務があるだけで、その使われ方が不明である。
  - ・ISO 審査のための書類も同様であり、本来行う必要があるのか不明である。
  - ・そのために増やしている仕事が無駄な業務であれば、本来の必要な業務の範囲でいかに ISO の要求事項に落とし込んでいくかが課題である。
  - ・倫理は何のために必要か目的を明確にしないと守られないのと同じで、エネルギー量の把握のための報告もその使われ方が明確にされていないといけない。
- 3) 鉄道(モノレール)のメンテナンスに関して
  - ・鉄道は環境に易しい移動手段といわれているが、整備の際に洗浄やエアコンのフロンガス排出など、必ずしもイメージ通りではない面もある。
  - ・内部のマイナス面をいかに表面化させ社会的責任を果たしていくのが課題である。
- 4) 海外企業のトラブル
  - ・社外秘を理由に検証の記録を出さない、場合によっては記録そのものがないケースもある。
  - ・規格基準そのものが違う。
  - ・技術者の倫理意識が違う。
- 5) パナソニックの石油ファンヒーター
  - ・パナソニックの製品回収により企業のとるべき、基準のようなものができてしまった。
  - ・大企業であるからこそ資金力で出来た対応であり、中小企業が同様のケースでどう取り組むべきか考えなくてはならない(例えば雪印食品の保管下請は真実の告発により倒産してしまった)。

- ・ PL 保険のようなものを考えることもひとつの対策。
- ・ コストの中に安全性を認識している消費者ばかりではなく難しい課題である。

## グループ2(コーディネーター:鈴木 史人)

### 1) 「半導体メーカーの CSR」

CSR とは何かについて、エンロンの不正経理・取引問題や三菱自動車工業リコール隠し問題を例に話がされた。

- ・ 半導体メーカーは事業者取引が中心であり、最終消費者の声が届きにくい業界であることも CSR への取り組みに影響している。また欧州では電気電子製品に対する基準が最も厳しくなっている(製品の梱包材であるラベルシールの糊材質まで対象)。
- ・ CSR 活動の報告の仕方は様々である。事例企業の場合、環境経営やグリーン調達と CSR 活動とは個別に取り組んでいる。
- ・ 社会全体の取り組みとしては、女性の働き方・労働環境の向上(ダイバーシティの受容)が挙げられる。今後の少子化の対策として、女性や外国人も労働力として受け入れることや機械化による省力化が必要である。

## グループ3(コーディネーター:根本 英俊)

### 1) 「企業の役割と環境への配慮(日立電線 CSR 報告書を題材に)」

- ・ 一企業の CSR 報告書を読みながら議論できた。CSR の今後の展開が気になった。
- ・ CSR 活動はここ 10 年程度景気等によってぶれるものであるが、今後定着させていく必要があると感じた。
- ・ 大学・国の社会的責任も各々あると思う。この様な考え方が広まって行くのではないかな。
- ・ CSR で一歩進んで取り組んだことをステークホルダーが評価するようになってきている。更に進めるよう自分も努力したい。
- ・ 自社の CSR をじっくり読む機会がなかったので、今回は良い機会になった。

(文責:武井 遼)

行事名	中間報告会及び池田洋一郎氏講演会(国をつくるとは)
日時	2009年12月19日
場所	荳手第二ビル5階 C,D会議室
講師、発表者	講師:池田洋一郎氏(財務省国際局国際調整室) 発表者(中間報告):山中委員、石関委員、畠田委員、松本委員
担当者:(○印:リーダー)	○武井 遼、根本 英俊(記)
参加者数	例会:35名 懇親会:33名

## 1. 背景・目的

国際感覚に優れた講演者による講演会を実施し、グローバルな視点で考える機会を提供する。併せて、青年委員会の活動中間報告を実施し、青年層および技術士会関係者に活動のPRを実施する。

## 2. 例会内容

### 2.1. 中間報告会(14:30~15:00)

#### 1) 例会 Gr:山中委員

例会の実績とその様子を写真入で紹介。サッカー/フットサル練習実績と合同練習、日韓戦の様子を紹介。

#### 2) ITGr:石関委員

ITGr 役割内容と、別館、ネットミーティング(Skype™, SOBA)、ML等のツール紹介。別館については実物で紹介。

#### 3) 支部交流Gr:石関委員

本支部交流とITGr協業の支部交流用サーバー、本支部共有パンフレットの紹介等。

#### 4) 広報 Gr:畠田委員

担当内容と広報媒体の紹介。年度目標として、活動報告と年鑑の準備、広報媒体の拡大の検討。

#### 5) 国際交流 Gr:松本委員

国際交流の目的と活動の概要と実績、本年の交流実績(日韓、香港、CAFEO/YEAFEO、マレーシア)紹介。

### 2.2. 講演(15:15~16:40):池田洋一郎氏(財務省国際局国際調整室)

「国を創るとは」という演題にて、先ず「なぜ国づくりを志したのか?」のテーマで第二次大戦のきっかけ、失われた10年等、時代背景とデータを交えながら、公務員になろうと考えた経緯。

「官民協働の交差点で得た気付き」として、「官民協働ネットワークCrossover21」を立ち上げた理由等を通じ感じたこと。「日本再発見の旅路での気付き」のテーマで、ハーバード大学ケネディスクール留学で感じたこと、インターンシップやボランティア活動で世界各地を廻った体験を通じて感じたことを紹介しながら、最後に「公のために出来ること」を考えることの重要性を説いた。

池田氏からの「参加者同士の交流を図れる講演にしたい」との意見から、講演から6Grに分かれた机配置とした。講演の中でも「技術士の紹介」「外国人に聞かれたらどう答えるか」等の課題によりGr内の話し合いを持たせるユニークな形式の講演運びであった。

### 2.3. グループ討議、発表(16:40~17:30)

池田氏講演を通じて感じたこと、考えたことを6Gr内で話し合ってもらい、内容の報告、質問を受けた。

#### グループ討議感想

自分の携わっている業務だけでなく、今後は全体の状況をバルコニーから見る視点で捉えるようにして行きたい。官僚にも池田さんのように組織を隔てることなく取り組んでいる方がいることを知り希望を持ってました、自分も国のために何が出来るのかを考えて行きたい。海外から客観的に日本を見直したいと思いません。普段の仕事では直接縁がない話を聞くことができ大変勉強になりました。技術者も世界経済というものに興味を持って取り組まなければならないと感じました。普段は周りの人には気付かれることがないが、問題が起きない事を使命としている自分の仕事に少し自信がもてました。

## 2.4. 池田氏講評

日本人は謙虚であることが世界の国々から評価されている面を認識して、自信を持って取り組んでもらいたい。日本は資源が少なく、技術で世界に貢献することが重要であり、その意味でも日本の技術者育成が大切な役割であると考えています。皆さんが技術者の立場で何ができるのか考え悩んでいることが分かりました。官庁間でも縦割り行政にならないよう、国民・世界のために何ができるのかについて考えて行きたい。皆さんも Crossover21 の活動に興味を持っていただければぜひ参加いただきたい。

## 2.5. 懇親会(17:40~19:45)

- ・ 池田氏は販売の著書にサインを求められていたが、その合間を縫って各テーブル廻られ、多くの出席者と交流を深められていた。
- ・ 中小企業診断協会東京支部中央支会青年部長の原氏、弁理士の高橋氏、矢崎氏、また北陸支部から大塚委員も参加し、賑やかな懇親会となった。
- ・ 本会にて池田氏の著書販売を実施した。30冊準備したがほぼ完売した。(懇親会終了時で残3冊)
- ・ 著作「ハーバード・ケネディスクールからのメッセージ 世界を変えてみたくなる留学」

## 3. 成果と所感

講演内容は国際交流というより「公」の意識を強く持てというメッセージ性の強いものであったが、池田氏の熱い信念と体験に裏付けられた問題提起、巧みな相互交流のための演出により、参加者の印象に強く残る例会になったと考える。

## 4. 今後の展開

池田氏という強烈なキャラクターにより今回の例会は成功裏に終了した。また、池田氏にも今回の交流を通じ、技術士に対する理解を頂いた。今回得た繋がりを青年委員会のみならず、日本技術士会の今後の活動に生かすことが出来るのではないかと考える。

今回の例会、懇親会では中小企業診断士、弁理士等、他士業の方々と会の運営他の情報交換が出来た。今後も異業種交流を継続してゆくことは視野を広げる意味でも役立つものとする。

行事名	<b>国際交流活動報告会</b>
日時	2010年1月24日
場所	葺手第二ビル5階 A,B 会議室
講師、発表者	国際交流活動総括:武井委員 YEAFFEO 報告: 金子氏、関氏、齋藤氏 日韓会議報告: 山中委員、山下氏(山口県技術士会青年部長)、 高木氏(中四国支部委員)
担当者:(○印:リーダー)	○石関 学(記)、山中 淳至、末廣 多恵子
参加者数	19名

## 1. 背景・目的

青年技術士交流実行委員会(以下、青年委員会と記載)では、会員の国際的な視野を拡大し技術研鑽につなげるために、アジア・太平洋圏の各国との間での国際交流活動を行っている。

本例会では、青年委員会における国際交流活動の報告を通して、参加者に国際交流活動の内容を把握してもらうことと、参加者間での交流・情報交換を実現することを目的とした。

## 2. 例会内容

### 2.1. 国際交流活動の紹介(13:30~13:50 武井遼委員 ※松本委員の代理発表)

青年委員会の国際交流活動の概要を発表した。目的、ミッションステートメント、香港・豪州・YEAFFEO等の活動経緯などを紹介した。

交流先が APEC 地域に限定されていることについて質疑を受けた。青年委員会のスタンスとして、まずは交流活動を定常化・コネクションを確実なものにすることを目的としている旨を返答した。

### 2.2. YEAFFEO 参加報告(13:50~15:10 金子淳一氏、関卓史氏、齋藤洋一郎氏)

#### 1) YEAFFEO 工程全般について(金子氏)

全工程の概要を発表した。セレモニーやカンントリーレポート、イベントの状況を、写真とムービーを使用して報告した。シンガポールに関しては、環境技術に関する意識が高いこと、地球の環境保護と技術開発の調和を図る努力をしていることを、所感として述べられた。

#### 2) 個人の発表

##### ・金子氏

YEAFFEO 前後のシンガポール滞在の様子を、写真を使用して報告された。

##### ・関氏

YEAFFEO を通じて東南アジア諸国について抱いた考えを述べられた。宗教の違いによる国民性・考え方の違いを感じたこと、公共性の維持と技術の革新を両立する必要性を感じたことを報告された。

##### ・齋藤氏

ご自身の視点から、YEAFFEO 工程を報告された。シンガポールは日本にいたのと近い印象を受けたこと、語学力の差を感じたこと、パスポートを無くした経験から注意する意識をもったことなどを報告された。

#### 3) 質疑

##### ・CAFEO での国際学会の内容について

主に4分野(機械、農業、環境、建設)についてのセッションがあった旨を返答した。

##### ・国際学会の技術的な配布資料について

参加者が個人持ちをしているので、後日調整することになった。

### 2.3. 日韓技術士会議参加報告(15:20~16:10 山中淳至委員、山下氏、高木周一氏)

#### 1) 日韓技術士会議工程全般について(山中委員)

全工程の概要を発表した。日韓交流サッカー大会、懇親会、青年委員会からも参加した第五分科会についての様子を、写真を使用して報告した。第五分科会の参加者が少ないことについては、日韓相互の参加者の公用語が英語であることが、ハードルになっているのでは、という報告であった。

## 2) 来年度の日韓技術士会議について(山下氏、高木氏)

本例会は、Skype™を使用して、東京と山口県と広島県を接続し、同時並行的に例会を行う試みを実施した。来年度の日韓技術士会議は山口県の開催であり、その準備状況を、山下氏が報告された。国体のプレマッチがあるため、山口県のサッカー会場がほとんど予約されてしまっていること、場合によっては北九州でのサッカー大会になることを報告された。本部・支部間で情報交換しながら準備を進めていくことを確認しあった。

### 2.4. 意見交換会(16:20~17:30)

軽食とコーヒーを準備して、参加者間で意見交換を実施した。予定の時刻まで活発なやり取りや名刺交換が行われ、国際交流のみならず、様々な意見交換が行われた様子であった。

### 2.5. その他

会場の一部には、国際交流関係の資料やパネル、YEAFEOを始めとしたイベントの際に交換した記念品などを展示した。また、YEAFEO参加者が作成したポスターを掲示した。これには、他国のメンバーについての紹介が記載してあった。

## 3. 成果と所感

意見交換会での活発な議論の様子から、国際交流活動内容の参加者へのインプットと、参加者間での交流・情報交換の実現という本例会の目的については、達成できたと考える。一方で、アンケートを読むと、報告だけでは内容が薄かったという感想もあった。参加者の観点からすると、お茶会だけでなくディスカッション等を混ぜ込む必要があったかもしれない。

担当者の所感としては、総括発表者を直前になってアサイン変更したこと、参加者へスケジュール表を配布しなかったことは、準備不足であった。一方、本部として初めてSkype™を例会で導入したことは、遠隔地での同時開催という観点から有意義であったと感じる。

## 4. 今後の展開

青年委員会での国際交流活動は、本年で7年を数える。YEAFEOの参加は定常化してきたと言え、会員への国際交流の機会提供を、今後も継続的に行っていく必要があると考える。



行事名	平成 21 年度 技術士第一次試験合格者歓迎会
日時	2010年1月30日(土) 15:30~17:30(質疑応答含む)
場所	ベルサール神田
講師、発表者	パネリスト 1. 技術士 浦田 学 (情報工学部門) (中部支部) 2. 技術士 高橋 健一 (建設部門) 3. 技術士 山中 淳至 (原子力・放射線部門) 4. JABEE 認定課程修了生 下田 公陽(化学部門・修習技術者)
担当者:(○印:リーダー)	○松本 正人 (建設部門)
参加者数	340名

## 1. プログラム内容

「技術士への挑戦」—それぞれの自分磨き—

### パネリストからの提言

- パネリスト1: 修習技術者として実務経験7年での合格体験
- パネリスト2: 修習技術者として実務経験7年での合格体験
- パネリスト3: 修習技術者として実務経験7年での合格体験
- パネリスト4: JABEE 認定課程修了生から技術士を目指して

### パネルディスカッションのテーマ

- テーマ①: 二次試験受験までのモチベーションの維持
- テーマ②: 日本技術士会との関わりと、自分磨き(パネリスト1, 2, 3)
- テーマ③-1: 技術士になってからの自分(パネリスト1, 2, 3)
- テーマ③-2: 社内の先輩技術士を見ていて思うこと(パネリスト4)
- テーマ④: どのような技術士を目指したいか

## 2. 成果と所感

4名のパネリストより、上記のテーマに沿った15分ずつの発表があった。その後、パネリストへの質疑応答という形でパネル討論を進めた。

中部支部の浦田氏の事例から、関東圏以外でも技術士会の活動に積極的に関与できることに触れた。中四国支部、東北支部からも同じ話題で地方部における取り組みなどについて、MICE を通じて紹介していただいた。

パネリスト4名の発表で共通していたこととして、下記の3点が挙げられた。

- ・ 技術士試験に合格するためには、「試験勉強」ではなく日々の業務でしっかりと実績を重ねていくことが大事なこと。
- ・ 一歩外に出る勇気が大切なこと。技術士会の活動に積極的な参加がモチベーション維持につながったこと。
- ・ 技術士資格の取得がゴールではなく、資格取得時がプロのエンジニアのスタート地点であること。

パネル討論では、終始一貫したメッセージを参加者に伝えることができたのではないかと思います。また、パネリストの方々からも、よい経験になったという声が聞かれ、パネリストやコーディネーター自身の自己研鑽にも役立ったのではないかと思います。

(文責: 松本正人)

行事名	<b>大洗研究開発センター見学及び意見交換会</b>
日時	2010年3月22日(月)
場所	大洗研究開発センター 常陽及び交流棟
講師、発表者	常陽施設説明者: JAEA 大洗 鈴木氏(技術士(原子力・放射線部門)) 講演者: JAEA 大洗 藤本氏(技術士(原子力・放射線部門)) JAEA 那珂 杉本氏(技術士(原子力・放射線部門)) KEK 高橋氏(技術士(原子力・放射線部門)) JAEA 東海 今本氏(技術士(原子力・放射線部門))
担当者:(○印:リーダー)	○山中 淳至(記)
参加者数	24名

## 1. 背景・目的

エネルギー自給率の乏しい日本のエネルギーを支える原子力。地球温暖化対策やCO<sub>2</sub>排出削減など、世界が抱える問題と原子力との関わりについて、原子力・放射線部門の技術士から原子力に関する概要やその必要性、さらに現在日本で行われている最新の研究開発や動向について学ぶ。

## 2. 例会内容

### 2.1. 常陽見学(10:40~11:20):JAEA 大洗 鈴木氏(技術士 原子力・放射線部門)

高速増殖炉(FBR)の原理と FBR 利用の意義及び高速増殖実験炉「常陽」の歴史、得られた成果、運転保守の経験などについて説明。また、核物質防護上、必要な手続きや施設周辺を防護する理由について説明。

### 2.2. 開会挨拶(12:45~12:50):JAEA 技術士会 栗原氏、青年委員会 田村氏、原子力・放射線部会 林氏

### 2.3. 講演(12:50~14:10):

#### 1) 「原子力入門と大洗センター及び HTTR 概況」 JAEA 大洗 藤本氏(技術士 原子力・放射線部門)

日本の人口増加、エネルギー使用量の増加さらに各発電方法のエネルギー密度からみる原子力発電の必要性をはじめ、世界のエネルギー消費と今後の需要など原子力全般について幅広く説明を頂いた。

また、開催場所である(独)日本原子力研究開発機構で行っている研究開発について紹介していただくとともに、大洗研究開発センターの高温工学試験研究炉(HTR)の概要及びそれを用いた水素製造が今後のエネルギー源として有望であることや今後の利用計画について説明を頂いた。

#### 2) 「核融合とITERについて」 JAEA 那珂 杉本氏(技術士 原子力・放射線部門)

物質の「分裂」により発生したエネルギーを利用する原子力発電に対し、軽い物質同士(重水素と三重水素)がぶつかって、より重い原子核となるときに発生するエネルギーを利用する核「融合」について説明を頂いた。

また、現在、主要7極(米、中、露、韓、印、欧及び日本)が協力して進めているITERプロジェクトについて、ITER 機構から募集される職員の公募についての紹介があった(英語は必要であるが職種は多岐にわたっており、原子力の経験は必ずしも必要でないとのこと)。

#### 3) 「加速器を用いた研究について」 KEK 高橋氏(技術士 原子力・放射線部門)

物は与えられる力によってより細かく壊れるという話から高いエネルギーの粒子を衝突させ、物質をより細かく分けることで物質の根源や起源を解明する基礎研究を始め様々な研究内容について説明を頂いた。

#### 4) 「原子力施設の耐震性及び耐震指針対応状況」 JAEA 東海 今本氏(技術士 原子力・放射線部門)

阪神淡路大震災後に改訂された原子力施設(再処理施設含む)の耐震評価に係わるバックチェックの対応状況についてその調査方法、評価方法も含めた説明を頂いた。

## 2.4. 質疑応答(14:10~14:40)

- Q 原子炉の運転で使用するウラン燃料の濃縮を行うのは国内か国外か。
- A 燃料となるウランは海外で濃縮された済の UF6 で輸入される。濃縮工場にはロシア、アメリカ、フランスなどがある。HTTR の燃料はフランスから購入した。
- Q ふげんともんじゅの違いはなにか。
- A ふげんの燃料の種類はウラン燃料と MOX (U、Pu 混合酸化物) 燃料で、水 (重水) を減速材として使っている。中性子は水の水素原子にぶつかることでエネルギーを奪われ、スピードが遅くなる。核分裂するウラン 235 は中性子のスピードが遅いほど核分裂しやすいことから、中性子のスピードを遅くする性質を持つ水を利用している。もんじゅの燃料の種類は MOX 燃料 (ふげんよりプルトニウムの割合が高い) で、ナトリウムを冷却材として使っている。(中性子を遅くする必要はないので、減速材は使用しない)。ナトリウムは水と違い、中性子を遅くすることはない、速い中性子は核分裂をしないウラン 238 から核分裂する Pu239 へ変えることができ、燃焼後の燃料の量は使用前よりも増やすことができる。また、ナトリウムは熱伝導性や腐食しにくいなどの利点がある。
- Q 原子力施設を建設する際、地元の方々からの反対意見等はなかったのか。
- A 原子力施設に限らないが、事業者が勝手に建設を行うのではなく、事前に国、地方自治体、地域の方々への説明会やシンポジウムなどを充分に行い、理解を頂いた上で実施する。それには数年を要することもある。建設に関する最終判断は地元自治体の長 (県知事、市長など) が最終判断をするが、それも県民、市民の方々の反対が大きい場合は了承されない。特に原子力施設では原子力発電所以外でも再処理施設や使用済み燃料の貯蔵施設など様々な施設が存在するため、施設によってはなかなか合意に至ることはなく、誠意をもって対応するしかない。

## 3. 成果と所感

- ・ 当日、急遽会場が変更となったが、施設の見学、講演会共にスムーズに進めることができた。原子力・放射線部会から参加して頂いた方たちが各分野 (原子炉、核融合、加速器、再処理、耐震、放射線管理、環境測定) で揃っていたため、色々な話を聞くことができ、また質疑応答も活発であったことから、今回の目的は達成できたと考える。
- ・ 管理区域には入れなかったが、アンケートや後のメールでは常陽の見学は多くの方が印象深かった模様。現在、平日以外に原子力施設を見学することはほぼ不可能であるが、今回、原子力・放射線部会と JAEA 大洗の協力があって開催することができたことに大いに感謝したい。

## 4. 今後の展開

- ・ 前日のサッカー合宿から参加されていた方がほとんどではあるが、茨城県、栃木県からの参加者もあった。初めての試みではあったが、アンケートでも人脈を広げたい、青年委員会の活動を知りたいとの要望が多く、地方開催について今後も検討を行う必要があると考える。
- ・ 今回は原子力・放射線部会との合同で開催したテクノツーリズムであるが、茨城県技術士会からの参加者からは今後の部会行事を考える上で参考にしたいとの意見があった。部会と連携し、より充実した例会を企画ができればと考える。
- ・ テクノツーリズムと併せて地域の文化に触れられる体験ができることは今後もひとつのオプションとして有効であると考えます。

行事名	<b>1・2次試験合格者歓迎会&amp;青年技術士展2010</b>
日時	2010年4月24日(土) 第一部:13:30~18:00 第二部:18:00~20:00
場所	鉄鋼会館701号室(第一部)、704号室(第二部) 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
講師、発表者	青年委員会活動紹介:平原委員補佐 講師: 野村貢氏(技術士(建設/総監)、(株)建設技術研究所) 桂利治氏(技術士(建設/総監)、桂技術士事務所)
担当者: (○印:リーダー)	横田、山地、他参加委員全員担当あり
参加者数	第一部:講演他 76名 第二部:懇親会 52名

## 1. 背景・目的

青年委員会の4月特別例会として「1・2次試験合格者歓迎会&青年技術士展2010」を開催した。日本技術士会や各部会で実施している合格者歓迎会とは趣を少し変え、技術士会へ興味を持ってもらうとともに自分の所属部門にとらわれない出会いと、先輩技術士からJABEE出身の若い技術者までの世代を超えた交流を実施すべく、青年技術士展として開催したものである。本会は二部構成にて企画し、第一部を講演と各部会による活動等紹介、第二部を懇親交流会として実施した。

## 2. 例会内容

### 2.1 開会挨拶及び青年委員会活動紹介(13:40~14:00):三留副委員長、平原委員補佐

三留副委員長より開会挨拶として趣旨説明及び自身の活動体験の紹介があった後、平原委員補佐による青年委員会の活動紹介を行った。まずは青年委員会の概要を知ってもらうことを目的とし、委員構成や支部、例会、国際交流及び全国大会等の活動報告を順次行った。

### 2.2 講演1(14:00~14:40):野村貢氏(総監・技術士(建設部門)、(株)建設技術研究所)

#### 「技術士取得にあたり考えなければならないこと」

今回は2講演を企画し、企業に所属する技術士と独立技術士に講師をお願いし、それぞれの立場から技術士としての思いを講演してもらった。

野村講師は企業技術士として勤務する傍ら、青年委員会の元委員長であり、現広報委員会委員でもある。講師からは、「掴もうと思えば機会は目の前にあり、それを掴むかどうかは各人が一歩踏み出すかによる」といった話があり、まさにスタートラインにふさわしい講演内容であったと思う。その他の主な項目は以下のとおりである。

- ・ 技術士取得はエンジニアとしての活動のスタートである。
- ・ 窓を開けよう:これからの技術者はギルド的職能には対応出来なくなって来ている。
- ・ ブルーオーシャンを目指そう:既存市場からちょっと違ったものを目指そう。
- ・ 美しいものを造ろう:論理的に結論が導かれるようになっている技術は美しい。

### 2.3 講演2(14:55~15:35):桂利治氏(総監・技術士(建設部門)、桂技術士事務所)

#### 「技術士でメシを食う」

桂講師は、民間企業に勤務した後に若くして独立技術士として活躍している方である。今回は、「生計の糧」「プロフェッショナルとして生きる」という2つのテーマについて講演された。将来的に独立を考える技術士にとって「いくら技術に詳しくとも、仕事を取ってこなくては始まらない」といったような点から、企業技術士と独立技術士との違いについて非常に考えさせられる内容であった。また、聴講者に対し、講演内容のKey wordについて、コメントをmailかblogで連絡するという宿題が出された。

#### 1) 生計の糧

- ・ 業務独占資格でないから資格で食えないというのは間違い。資格を持っているだけで食える資格は無い。
- ・ 名義貸し-お金のため誘惑に負けそうになる時があった。制度がそうさせている面もある。また、受験指導はビジネスではなく技術士会への恩返しと思ってやっていた時期もある。

## 2) プロフェッショナルとして生きる

- ・ 技術士試験合格は技術士としてのスタート。どの様にステップアップするかが問題。
- ・ 人間としての軸を一本持っていないといけない。
- ・ 素直さが大事。客が求めていることが実現出来ているか見つめ直す素直さが必要。
- ・ 自分自身も講師の話に引き込まれながら聞いていたが、講演内容が今の我々にまさに即した内容であったのか会場もメモを取る人が結構見受けられ、皆、真剣に聞き入っていたようである。

### 参加者感想

当日のアンケートでの講師に対するコメントを記載する。

- ・ 会社で講演をお願いしたい。
- ・ 仕事を取ってくださることが大切と言われましたが、実際にその点はどのようにされているのか、より具体的に伺えるとありがたかった。
- ・ 技術士(会)の総合力を発揮し、社会の進歩、経済の発展(日本、アジア、世界)に貢献するみの必要性、将来展望について語って頂きたかった。
- ・ 二人とも建設部門畑ではなく、お一人は他部門にして頂きたかった。

### 2.4 部会交流タイム(入替制:A)16:00~16:55、B)17:00~17:55)

A)青年、生物工学、原子力・放射線、電気電子、機械、衛生工学、講師、CPD

B)青年、建設、経営工学、情報工学、上下水道、水産、化学、環境、

小テーブル形式のブースを設置し、参加者はそれぞれのブースに自由に参加しながら各部会の担当者と話ができる形式で行った。広く技術士会を知ってもらうとともに、自分の部会以外の活動に目を向けてもらいたいというコンセプトから、部会を2グループに分けた入替制とし、少なくとも参加者が2ブース以上を訪問できるよう配慮した。なお、青年委員会は通してブースを設置し、全体活動及び国際活動についてより具体的な紹介を行った。

青年委員会の国際交流側には、国際交流に興味があるという方が多数集まった。

### 参加者質問・意見

当日のアンケートやブースでのコメントを記載する。

- ・ 日韓、国際交流委員会のブースが有ると良かった。
- ・ 技術士会では海外規格との整合性を図る様な活動(DIN やBS、EN 等海外「規格」とJISとの整合性推進)はしていないのか。

### 2.5 交流懇親会(18:00~20:30)

武井副委員長の乾杯にて懇親会を開始。参加者は皆積極的に交流を図り、孤立する方も居らず、賑やかな懇親会となった。時間によっては委員の自己紹介や参加者の紹介等も考えていたが、そういったイベントを盛り込むまもなく終了時間となり、田村委員長の挨拶により閉会となった。

## 3. 成果と所感

以下、担当の記載とともに参加委員のコメントを列記する。

- ・ 開催の申し込みにあたって、「私は青年の年齢ではないから」という問いが多々あったことから、年齢制限は委員になる条件のみという点をまだまだアピール不足のようであった。背景にも記載したが、先輩技術士からJABEE出身の若い技術者までの世代を超えた交流をつなぐことができるのが青年委員会であると考えており、こういう機会を通じて青年委員会の存在をまだまだ広めていかなければならないと思う所である。
- ・ 一般で50名程度の参加があり、非常に活気のある会となった。APEC エンジニアの資格を取りたいという思いなど、高い志をもって技術士取得に取り組んできた人もおり、自分自身も非常に刺激を受け、自分の技術者としての思いを見直す非常に良い機会でもあった。
- ・ 例会幹事の準備が良く、各スタッフはスムーズに動けた。
- ・ 技術士受験申込書等、技術士会関連配布物を貰っていく人が多かった。
- ・ 会場入口及び受付に催し物の看板が有ると良かった。
- ・ フロアの地図(手洗い場の位置等)があった方が良かった。
- ・ 第1部の時、去年のようなシャッフルタイムがないのか?と聞かれた。最初に適宜移動するよう案内はしても、なかなか難しいのかも知れない。

- ・ 部会によって人数がまちまち(講師のブースが大盛況、小人数の部会ほぼ身内)
- ・ 自分の部会を聞きたいというもとの要望が強くほとんど移動がない。
- ・ 第1部で興味のある部会が終わると帰ってしまう人が結構いた。
- ・ 講演+技術士を囲んでのディスカッション+懇親会という3本立ての構成は良かった。
- ・ レイアウト変更なども上手いき、会全体の進行としてもスムーズに流れていたように思う。全体的に参加者にとっては満足していただいたように思う。
- ・ 若手の参加者が少なかったように思う。これは、講演内容をみても、若手に興味をもってもらった内容であるかどうか吟味していないところに原因があったと思う。今回は“企業内技術士”と“起業技術士”による講演であったが、若手はほとんど企業内技術士のため起業技術士の情報がほしいという若手の参加者が少なかったのでは。若手でも経験のある人にでも対応できる講演内容であったので、もう少し事前広報をしておいたほうがよかったのではないかな。
- ・ 「イベントというものは、来させて何ぼ」だと思うので、「来てもらえば、こっちのもの」とするためにも広報の仕方をもう少し考えるべきだと思う。
- ・ 講演内容が非常に判りやすく、受講者も聞き入っていた。
- ・ 年配者の方も満足している様子だった。
- ・ 第1部のブースでは皆の先輩技術士の話に対する『喰いつき』がよく、青年委員会の活動についても十分な理解が得られたのではないかと感じる。
- ・ 懇親会でも、孤立している人もおらず、盛況であった。
- ・ 今後の青年委員会の活動に対して充分期待できる内容であったと感じる。
- ・ 多くの他部門の技術士と交流することができ、大いに刺激になった。
- ・ 講演者に興味深い話をしていただけだったのでよかった。
- ・ 自分の部会の参加者は3人と少なかったものの、ブースには他部会の方も来てくれたので盛況だった。部会から応援者も参加してくれ、自分一人では負担が大きかったと思う。

#### 4. 今後の展開

以下、担当の記載とともに参加委員のコメントを列記する。次回以降の例会への課題については今後の検討課題とし、ここではコメントの記載のみとした。

- ・ 参加者の確認について、50人ともなると確認作業が大変である。さらにその他の方へお誘いメールを加えると実際は收拾のつかない状況であった。大規模例会は、開催する側の体制をきちんと整えてから対応するように前もって段取りすべきである。
- ・ 例会は2部構成としたが、一部のみか二部までなのか等の出欠確認があいまいで確認作業が非常に難航した。月刊技術士への記載内容、青年委員会HP、同報メール等の広報の方法について、主催者側が確認したい情報を入手できるように統一方針で広報していくよう気をつけるべきである。
- ・ 委員は、講演中に後ろに座ろうと思っていたが、参加者が後ろ側を中心にばらばらに座ってしまったため、委員席は最初から確保すべきであった。次回以降注意するとともに、入口で前席へ案内するなど対策を行ったほうがよい。
- ・ これは幹事の仕事ですが、講演者へ、講演中の飲み物等を演壇に準備することを皆さん気付いていたでしょうか。講演例会を行う場合は注意願います。
- ・ 技術士会関連の配布物が多数あり、次回担当のためにリスト化を行う。
- ・ 参加していただく“ターゲット”は誰なのか? →「とにかく、だれでも参加できるよ～」という形ではなく、参加者を迷わせない形を心がけるべきである。
- ・ 青年委員会の特徴を醸し出した“例会”とは何なのか? →専門技術的なことを実行するのであれば部会でよい、若手技術者(修習技術者)に対する試験フォローに特化するのであれば修習委員会が良い。青年委員会だからこそ可能な例会について検討してみることが必要である。
- ・ 参加者の“成果物”は何なのか? →講演を聞いて、単に面白かった、有意義だっただけでは成果としては事足りない。参加者が、技術者として実務に生かすことができるものが成果物であるべきだと思う。この点についてもう少し議論をしていくべきである。
- ・ イベント集客のためのセミナー等もあるため、これを機会に勉強していくという手段もある(<http://escenaota.blog81.fc2.com/>)。

- ・ こうして来て頂いた以上、来場者には今後の例会についても ML を作製し、例会ごとにお誘いするのが良いのではないかと。
- ・ 一度得た顧客の関心を持続することが青年委員会例会を仕切る側にもやりがいになるだろうし、今後の委員会参加者獲得にもつながると思う。
- ・ 今回の問題点として挙げたが、1部と2部の間に多くの方が帰ってしまわれた。これは「つまらないから」ではなく、「自分の専門分野については聞いたからもう充分」という満足感が先に働いたからだろう。今後の例会でもこのようなことが起こることが予想される。どのようにしたら、『懇親会に予約してなかったけど出てみようか』と思わせるくらい後半まで参加者の興味を引っ張る工夫が今後必要だと感じた。
- ・ 上記に関連するが、皆自分の専門分野にどうしても固まるきらいがある。ブースタイムのシャッフルはこちらからする必要があるだろう。
- ・ 他の部会を知ってもらう目的のため、複数の部会をまわってもらうには何らかの対策が必要。
- ・ 今後の例会の手本になる部分、課題となる部分が良く判ったと思う。これをたたき台にして例会の運営方法が練られていくと良いのではないかと思った。
- ・ 新合格者からのプレゼンをする機会があれば、より良いと思う。
- ・ 懇親会が目的で参加する人もいるので、懇親会は続けるべきだと思う。料理は豪勢だったが、少なかった感がある。質を落として、量を増やすと良いのかもしれない。各部会と技術士会全体の合格者歓迎会の後という日程は、人を集めやすいので今後も続けるべき。
- ・ 第1部の時、去年のようなシャッフルタイムがないのか？と聞かれた。最初に適宜移動するよう案内はしていたが、なかなか難しいというのが実情である。自分の部会を聞きたいというもとの要望が強くほとんど移動がないため、他の部会を知ってもらう目的のため複数の部会を廻ってもらうには何らかの対策が必要であり、例えば運営委員会で話題に出たスタンプラリーなどはいいいアイデアだと思う。
- ・ 部会によって人数がまちまち(某ブースは大盛況、自分の部会はほぼ身内)であった。また、第1部で興味のある部会が終わると帰ってしまう人がいたり、部会が第2部の方は手持ち無沙汰になってしまったりしているような感もあった。こういった点は今後の課題である。

## 5. その他

日本技術士会の本部事務局並びに各部会の皆様によるご支援とご協力により本会が滞りなく行われ、また充実した内容になりましたこと深く感謝するとともにお礼申し上げます。





# 支部交流活動報告



## 支部交流活動報告

支部交流グループリーダー 北條 健一

宮本 忠博(前期)

### 1. 支部交流グループ活動の方針

- ・色々とトライする中で新しい支部交流像を模索する
- ・継続できる体制を整えていく

### 2. メンバー

北條(リーダー)、石関、根本、松本、松永、渡辺(春)、平原、渡邊(弘)、宮本

### 3. 平成 21 年度の活動内容

平成20年度は、(1)本支部交流会議、(2)全国大会、(3)日韓会議等主催支部の支援、(4)サーバー、テクノツーリズム共有支援、(5)HP、ブログ、(6)メールニュース、(7)学生ネットワーク、(8)活動年鑑原稿収集、(9)本支部共通パンフレットの9つについて計画を立てて実行した。

### 4. 成果

#### (1)本支部交流会議

##### 【計画】

時期：6月拡大運営委員会時と全国大会(秋)の年2回開催

役割：テーマの募集、決定、議事録・テクノツーリズム企画

##### 【成果】

##### a) 拡大運営委員会

6/27 に実施。3 グループ(支部交流、国際交流、青年委員会活動ガイダンス)に分かれてのディスカッションを実施した。6/28 に、テクノツーリズムを実施した。「建設中スカイツリー～水上バスから見る隅田川の橋梁～ 潮風公園の等身大ガンダム」。

##### b) 全国大会(秋)

テーマは、募集(10/5)後、「技術士の地位向上について・かっこいい技術士のブランディング化」と決定した(10/13)。全国大会で交流会議を実施し、本・支部連絡交流会議事録(11/7)を配布した。10/14 にテクノツーリズムを実施した。「秋保温泉～大蔵ダム～松島」

#### (2)全国大会、日韓会議等主催支部の支援

##### 【計画】

時期：2009年10月 全国大会(仙台・東北)

2010年9月 全国大会(四日市・中部)、2010年秋 日韓会議(下関・中四国)

役割：参加者収集支援、全国大会青年交流誌制作協力及び予算手配、日韓会議発表者募集、サッカー募集

##### 【成果】

全国大会(仙台・東北)の参加者収集支援(参加者人数調査の実施)

冊子は、各支部などに配布(委員長や執筆者)、青年交流誌は各支部に配布した他、支部活動報告分を抜き出しコピーした簡易製本を全国大会会場受付にて自由に閲覧、持ち帰りできるようにした。

#### 3. サーバー、テクノツーリズム共有支援

##### 【計画】

ITグループと協力、相談

#### 【成果】

11/2,24、12/4 ITG と支部交流 G の役割分担打合せ

- ・ITG は、基盤作りと整備を主業務と考えている
- ・支部交流ページ（活動報告の閲覧）へのアップは支部交流 G が実施することで調整中
- ・活動報告のコンテンツのアップを含めた、各支部との連絡用として、ML を作成して各支部代表宛に案内メールを出す。

#### 4. HP、ブログ

##### 【計画】

- ・各支部の紹介コンテンツ掲載の希望あり・ブログには支部の例会を掲載・広報グループと協力、相談

##### 【成果】

12/4 広報 G と支部交流 G の役割分担打ち合わせ・広報 G が青年委員会のホームページ上に各支部のリンクを作成し、各支部に紹介ページを作成（活動年鑑に掲載されているものでも OK）してもらう。この作成依頼は支部交流 G が行う。

#### 5. メールニュース

##### 【計画】

時期：月初

内容：前月の報告をまとめて各支部へ送信

##### 【成果】

青年委員会 ニュースレターを作成し、各支部及び理事・部会長宛に送信した。

2009 年分 11/12：10 月号、12/7：11 月号、'10/1/12：12 月号

2010 年分 2/11：1 月号、3/15：2 月号、4/8：3 月号、5/13：4 月号、6/11：5 月号

#### 6. 学生ネットワーク

##### 【計画】

2009 年 6 月に中部より提案、今後検討

##### 【成果】

学生の意見をヒアリングし、有効性を検討していく

#### 7. 活動年鑑原稿収集

##### 【計画】

時期：毎年 6 月発行（拡大委員会時配布）

##### 【成果】

1)活動方針・「後世に伝える」年鑑編集・苦勞せずに年鑑編集ができる仕組みづくり 2)活動詳細・時期：毎年 6 月発行（拡大委員会時配布）・例会報告書 定型フォーマット化・運営委員会報告書 定型化、活動年鑑をデータ配布した。

#### 8. 本支部共通パンフレット

##### 【計画】

- ・2007 年度日本語版、2008 年度英語版 完成、適宜データの更新、発行・現在は A 4 裏表 1 枚だが、当初は豪華版 の作成も検討。

##### 【成果】

YEAFFEO 派遣者用としての英語パンフレットのレビュー11/16 本支部共通パンフレット（日本語版&英語版）レビュー

#### 5. 今後の活動・展開

- ・次回・次々回全国大会へ向けての青年委員会支部交流活動の準備
- ・今回 6 月拡大委員会後、グループミーティング決定事項についての具現化に向けて委員長・各グループとの協力のもと活動する。

行事名	<b>全国大会(仙台) 青年技術士本・支部連絡交流会</b>	
日時	2009年10月16日(金) 16:30~18:15	
場所	奥州 秋保温泉 蘭亭 会議室	
参加者	北海道 樋詰、田中、奈良 東北 開米、飯島、前田、 堀内、渡邊、加藤、 小嶋、佐藤、五十嵐、水出 関東 田村、石関	中部 平松、浦田 北陸 大塚 中・四国 中田、高木、井上 九州 持田、山田

## 1. テーマ

- 議論テーマ:「技術士の地位向上について・カッコいい技術士のブランディング化」
- 配布資料:  
議論テーマに通ずるため、広報戦略特別委員会で作成し下記の資料を参考に配布。  
(1)広報活動調査表、 (2)広報活動 目標・対象マトリックス

## 2. 議事録

### 2.1 議論テーマに沿ったディスカッション

※本ディスカッションは、全員一致で、発散型の情報交換ディスカッションとすることとした。

#### 1) 技術士の知名度・地位の向上に関して、どのようなアクションをするべきか、してきたか

- 具体的なアクションプランがない。技術士会の内部でも、上層部ができることと、我々会員レベルができる活動には差がある。上層部はマスコミなどを使用した戦略を実行するべきだし、我々は身近な活動を少しずつ進めていくべき。(山田)
- 九州では、小学生対象の夏休み自由研究サポートや見学会を実施した。(山田)
- 学生対象の講演会を実施した。マスコミやテレビに出ることで知名度の向上に繋がる。その際には技術士であること、部門名であることを明言するべき。(樋詰)
- 国際交流フェスティバルに出店し、子供対象の理科実験を実施した。自己紹介する時は“技術士の〇〇です”と明言する必要あり。(高木)
- 教育委員会と連携して理科支援を実施した。ただし活動は平日であるため、支部の上層部に依頼している。青年層は研究会に参加している。(平松)
- 太陽電池自動車を動かした。小中学生を対象に啓蒙、経由して親に紹介する。(持田)
- 品川女子学院(中高一貫)には理系コースがあり、環境問題について勉強会を実施した。理系でも学生にも先生にも具体的な技術者のイメージがないことが分かり、女性技術士の会では学生向けのキャリア紹介の冊子を作成した。技術者からの視点を根付けることで、地位向上につながるのでは。(田村)
- 学生の頃からの職業教育が重要なのでは。(平松)
- 気象予報士みたいに、マスコミ用に10人くらい育てこむ必要はあるのではないか?(山田)
- 先日、女性誌 anan にキューピー勤務の女性技術士(農業部門)の人が掲載された。(田村)
- 技術士が浸透していないので、技術士であることを明言しにくいこともある。(平松)
- 公共事業の予算カットにより、土木工学の衰退に繋がりがうかがえる。学問がなくなりかけているとも言える。このままではなくてもいい資格になってしまうことも考えられ、まずはこれをいかに防ぐかが重要。東北では理科支援を公募しても申込みが1件もなかったと聞いているが、他の支部の話を聞いて売り込みにいくことも大事だと思った。(開米)
- 行政の運営にいか食い込むかがポイントではないか。知り合いの先生がいる学校など繋がりをうまく利用して売り込む。(田中)

- 技術士資格の体系的な話(資格や制度など)をするよりも、身近な仕事の話のほうが食いつきがいい。(奈良)
- 技術士を取ったらどんないいことがあるのか。転職ぐらいか。その辺をアピールできるようになるといい(中田)
- 先日の日韓会議の際、開通間近の仁川大橋を見学した。これは技術士会員であることの大きなメリットであると感じた。技術士には 21 の部門があり勤務先も多様であるため、一般の方々からすると仕事のイメージが浮かばないだろう。また、技術士の地位向上についても、誇りか、収入か、名誉か、技術士であるからこそ得られる体験かなど、価値観の相違により抱くイメージは人により異なると思う。そうした中で技術士会として、地位向上の方向性を示し行動することに賛成する。(大塚)
- 小学校の現場はアシスタントティーチャーを求めている。小学校では年間に 1 カリキュラム(同じことはやらない)なので、やりやすいのでは？(山田)
- 技術士向けではなく、一般の人に年 1 回アンケートを取ってはどうか。どこか大きなサイトに依頼することも可能なはず。知名度について毎年ポイントが上がっているかどうか、見えるようになるとアクションもしやすいし、モチベーションもあがる。(樋詰)
- 技術士を学生の時から知っていた人に質問。どんな経緯で知ったのか？(田村)
- →大学の先輩で、20 代で合格した先輩がいた。友達のお父さんが技術士だった。本屋さんの資格取得の棚に並んでいた。友達が知っていた。母校が JABEE 課程を検討した。

## 2) カッコいい技術士とは??

- 子育てとの両立。
- 子供時代の橋梁施工現場見学にて、説明者のエンジニアリング視点の説明が、子供心に、“純粹にかっこいい”と思わせられた。身近にかっこいい技術士がいることを発信していくべきでは。コンセプトや周辺環境まで解説できるのはおそらく技術士である。作るダイナミズム考えるダイナミズムのようなものを見せられるといい。(前田)
- 現状は技術士会の内向けに発信しているのでは。内部だけでなく、一般の人にもアピールするべき。(田村)

## 3) その他

- 技術士と技術士補(修習技術者)を差別していないか。
- 月刊 PE の扱い。本屋に置いて買ってもらえるものを作れないか。例えば Newton みたいに、技術を一般の人にも分かりやすく。(開米)

## 2.2 来年の全国大会について

- 1) 9/24 青年技術士の集いが 13:00~なので、本支部交流会議は 11:50~12:50 に設定することにする。
  - 青年技術士の集いでは各支部活動報告を予定。
  - 活動報告そのままではなく、テーマを決めてもいいのではないか。
  - 他の支部からの活躍している人を呼んで講演してもらうのは？  
→正式な発表者としてしまうと主催側が謝礼・交通費を払う必要があるので、中部で検討する。
  - ディスカッションでは、会場全体での討論会にしたい。
- 2) 青年の交流会は 24or25 の夜で検討する。金曜の夜が有力。
- 3) 9/26 は技術士会テクニカルツアーの伊勢神宮訪問の時間だけ合わせて青年のツアーの設定を検討。中部支部で可能かどうか協議。

以上  
(文責:石関)

## 北海道支部 青年技術士交流委員会



代表者 樋詰 透(建設部門)

### ■ 今期の活動内容 (2009.6～2010.5)

- 平成 21 年度総会、講演会(北海道コカ・コーラのCSR活動)、5/29
- テクニカルスクール(コーチングの基礎-一部下育成の手法-)、7/28
- 第 39 回日韓技術士会議(日韓親善サッカー大会)、10/8-9
- 第 36 回技術士全国大会(仙台大会)、10/17-18
- 北東 3 支部技術士交流研修会(変革の時代における地域活性化)、11/6
- 理科系教育現場における支援事業(北海学園大学)、11/11
- 青年技術士交流委員会 20 周年記念会、11/17
- 技術者フォーラム in 小樽(後志観光とインフラ) 12/1
- テクニカルスクール(コーチングの基礎-タイプ別の手法-)、12/8
- 北海道支部・事業委員会の技術フォーラム、2/25
- 札幌弁護士会との意見交換会、3/16

### ■ 今期の活動成果

- 全国青年技術士との交流  
全国大会には北海道支部青年技術士交流委員会から3名が参加、日韓技術士会議(親善サッカー)には北海道から2名の青年技術士が参加。
- テクニカルスクールの開講  
前年度に引続き第5回、第6回を開催し、のべ50名が参加。
- 北海道の技術、講演会  
1回の講演会を開催し、のべ38名が参加。
- 理科系教育現場への支援事業  
「大学へ行こう!」と題した理科系教育現場への支援事業として、北海学園大学で講演事業を実施。学生のべ50名が聴講。
- EPO(エンジニアリング・パーク・オンライン)の運営  
北海道の技術士 ML を運営し、5月現在約550名が参加している。

### ■ 今後の課題

- 次世代を担う技術者育成  
H20 から「大学へ行こう!」と題して、理系教育現場(大学)への支援事業を試行的に実施した。これを担う青年技術士が多忙な業務の中で、どのように継続的に取り組んでいくかが課題である。
- 修習技術者への支援、交流活動  
現時点では特段の事業を実施していません、今後の課題である。
- 技術士の社会的地位・社会認識の向上  
H19 から講演会、テクニカルスクールの一般参加を受付けるとともに、H20 からは理系教育現場への支援も試行的に行ってきたが、これらの事業の継続性が「技術士の社会的認知向上」の第一歩と考える。

### ■ その他、本部への意向等

- 青年技術士の全国的な連携を実感できる体制と活動を今後も継続的に望みたい。本部支部交流の場を委員(委員補佐)に限定することなく、地方の青年技術士役員幹事が幅広く参加できるように工夫すると、さらに活動が活発になると思う。

## 日本技術士会 東北支部 青年技術士懇談会

代表者 開米 浩久(建設部門、農業部門)



### ■今期の活動内容(2009.6~2010.5)

#### ①研修会の開催(研修テーマ:岩手・宮城内陸地震に学ぶ)

演題1 天然ダム決壊に伴う氾濫の危険度評価

講師 藤原直樹 技術士

演題2 駒の湯温泉を襲った土石流被害について

講師 佐藤真吾 技術士

#### ②本部行事への出席

拡大運営委員会(飯島幹事、渡邊幹事)、日韓会議(渡邊幹事)等

#### ③支部行事への関与

一次試験合格祝賀会運営、豊年技術士との交流(研修交流)

#### ④全国大会への関与

大会準備、運営スタッフ、大会宣言、分科会パネリスト、分科会運営等

### ■今期の活動成果

全国大会が仙台で開催されたこともあり、大会の準備、運営に積極的に関与できた。大会では、大会宣言(水出幹事)、分科会パネリスト(開米幹事、渡邊幹事)、本・支部連絡交流会進行役と例年以上の成果を挙げた。

ただし、全国大会準備に追われ、全国大会以外の活動は相当手を抜いた。



写真1 大会宣言



写真2 分科会パネリスト



写真3 本支部連絡交流会

### ■今後の課題

技術士活動へのお誘い: 高齢技術士に代わり、支部を牽引する人材(スター)の確保

### ■その他、本部への意向など

運営、行事、企画に対する考えは十人十色と思いますが、内輪(青年メンバー)の交流が多すぎる気がします。高齢幹部に変わり青年層が主体となる企画・運営を期待します。

## 北陸支部 青年技術士委員会

代表者 大塚 直吉(建設部門)



### ■今期の活動内容 (2009.6～2010.5)

#### 【委員会議】毎月(新潟市内)開催 出席者6～10名程度

見学会・講演会等の各種行事の企画、支部行事への参加要請等を実施。

#### 【支部4県交流会】9月12日～13日(新潟)参加者13名

第4回拡大委員会議 in 新潟では、各県の取組状況や課題、今後のあり方等について討議。その夜の懇親会では、諸々に語り親交を深めた。

長岡市の与板歴史民俗資料館(天地人関連)、燕市の信濃川大河津資料館と大河津分水(大規模治水事業関連)、及び新潟市の福島潟を視察。

#### 【見学会】9月26日(新潟市)参加者22名

テーマ:「地域の活力・底力」～燕三条地域の地場産業～

磨き屋一番館、燕市産業資料館、マジックシャモジの榊産業を見学。

#### 【青少年のための科学の祭典新潟大会に出展】9月28～30日(三条市)

小中学生や市民への理科・科学技術の普及活動、技術士の知名度向上活動として出展。「ゲリラ豪雨を“手づくり雨量計”でキャッチし土砂災害に備えよう」を模型、本物の雨量計、工作などで説明。

#### 【講演会】1月30日(新潟市)参加者27名

テーマ:「地域の活力・底力」

「地域の発展を担う金属加工技術」山崎正明氏、大口一英氏

「地域の恵みを活かす自然農業」宮尾浩史氏

#### 【地域の大学と企業の有志で企画するサッカー大会に参加】

早川田杯(6月14日、富山市)、丸井杯(7月26日、新潟市)

早川田杯(11月7日、新潟市)

#### 【本部(関東)とのサッカー練習試合】

8月8日(新潟市、京ヶ瀬屋内運動場)、11月28日(前橋市、粕川総合グランド運動場)、

3月21日(茨城県東海村、JAEA 箕輪グランド)

### ■今期の活動成果

【サッカー交流の定着】北陸支部 HP に活動予定掲載、ユニホーム作成など

【SNS の試験的運用】北陸支部青年 SNS を試験的に運用し有効性を確認

【青少年のための科学の祭典】小中学生や市民と関わることができた

### ■今後の課題

#### 【次世代の人材発掘】

北陸支部各県の青年委員会の円滑な運営、及び委員会を支えてくれる次世代の人材発掘により、委員業務の負担軽減と均等化を図る。

### ■その他、本部への意向など

#### 【また北陸においでください】

今年度もサッカー練習試合&テクノツーリズムを通じ、北陸支部メンバーに良い刺激を与えてくださるよう、よろしく願い申し上げます。



## 中部青年技術士会

### 代表幹事

2010 年度 高瀬春之 経営工学部門(写真)  
2009 年度 平松明子 建設部門・環境部門



### ■今期の活動内容 (2009.6~2010.5)

#### 1. 例会

○6月例会:2009/06/13(土)

見学会(キリンビアパーク名古屋(キリンビール株 名古屋工場))

○7月例会:2009/07/04(土) (中部企業内技術士懇談会との合同例会)

<演題1>「まちづくりと生物多様性—要するに、自然とどうつきあえばいいのか?」

<演題2>「外来種はホントにお邪魔?」

○9月例会:2009/09/12(土)

見学会 建設、環境 WG 担当(伊勢大橋、長良川河口堰)

○10月特例会:2009/10/28(水)

内容; 1.日韓技術士会議に関するエトセトラ

2.技術士全国大会とは?(2009 仙台大会への参加報告)

3.2010 年技術士全国大会(三重)に向けたフリートーク

○12月例会:2009/12/19(土)

①発表並びにディスカッション

『中部青年技術士会と私~「修習技術者、技術士補」から技術士への挑戦記~』

②講演「光があればどこでも使える 幅広い応用が可能な光触媒技術」

○1月特例会:2010/01/20(水)

内容; ①出席者それぞれの今年の抱負を語らう

②私の一本、その酒の思い etc.

○2月例会:2010/02/27(土)

第一部 情報WG担当「情報系、知ってそうで知られてないこと PartII」

第二部 製造WG担当「太陽光の有効活用~太陽熱温水器・光発電の実際と有効性~」

#### 2. 例会以外

○第39回 日韓技術士会議(韓国:仁川)

○第36回 技術士全国大会(仙台)

○第二回中部支部研究業績発表会

○青年技術士交流実行委員会総会

○日本技術士会中部支部会合

○技術士試験

### ■今期の活動成果

会員小集団活動のWG(ワーキンググループ)を開始して、2年経ちます。会員自ら得意とする専門分野を生かしつつ会員同士の繋がりが強くなったと実感しています。

### ■今後の課題

・新規会員の定着化 ・若手会員の増員

・3役、理事の世代交代 ・WG活動の進化

### ■その他、本部への意向など

・2010年度三重県全国大会青年イベントへの協力及び参加依頼

9/24(金):青年技術士交流実行委員会、青年の集い、青年交流会

9/25(土)~9/26(土):青年オリジナルツアー

## 近畿青年技術士懇談会



代表者 2009年度 大氏正嗣(建設部門)  
2010年度 井上信治(応用理学部門) (写真)

### ■今期の活動内容 (2009.6~2010.5)

講演会, ミニ講演会, ワークショップを例会として10回実施。技術士による技術講演はもちろん, 技術士試験・心構えから, 社会貢献のテーマまで, ジャンルにとらわれず幅広い講演内容を展開しています。

#### ▼技術講演

- 2009.06.26「たかつき環境市民会議の”たかつき天水くん”の普及実践活動について」  
:川下 好則 技術士(上下水道部門)
- 2009.10.30「プラネタリウムの作り方」:大橋 万紀 修習技術者(化学部門)
- 2009.11.27「金属の過去, 現在, 未来」:毛利 敦紀 技術士(金属部門)
- 2009.12.18「熱流体シミュレーションの基礎」:友広 輝彦 技術士(情報工学部門, 機械部門)
- 2010.02.26「タンパク質構造の計算機シミュレーションとグリッドコンピューティング」  
:田中 宏 技術士(電気・電子部門)

#### ▼技術士試験, 技術士の心構え

- 2009.09.25「技術士になるための心がまえとその後の変化」:小松 英雄 技術士(建設部門)
- 2010.04.23「青年技術士懇談会への誘い(技術士・補資格の有効活用法)」  
:喜多 繁幸 技術士(機械部門)
- 2010.05.29「技術士第二次試験へ向けて, 経験から伝えられること」  
:畑瀬 芳輝 技術士(化学部門), 藤本 純一 技術士(応用理学部門, 建設部門)

#### ▼社会との関わり, 社会貢献

- 2009.08.28「ブルキナファソにおける青年海外協力隊としての活動報告」  
:ゲスト:井上 邦子 様(青年海外協力隊(18年度3次隊 ブルキナファソ派遣))
- 2010.01.22 ミニワークショップ「身近なところから始める技術士の社会貢献」  
:ゲスト:NPO 法人グリーンスカウト大阪 様

#### ▼その他

- 2010.03.27 には会員のトピック的な話題を提供してもらいミニ講演会を実施  
「WEB サービスの最新動向と活用のための知識-ブログと Wiki と Twitter と GoogleWave-」  
:渋谷 高広 技術士(機械部門)
- 「労働安全衛生関係法令の改正について」:岩井 孝志 技術士(機械部門)
- 「グリーンスカウト大阪様とのコラボ企画第一弾~キャンプでの実験・体験学習支援の顛末報告」  
:宮西 健次 技術士(化学部門)
- 「光で化学する」:大橋 万紀 修習技術者(化学部門)

### ■今期の活動成果

例会参加者数が増加基調となりました。今年は特に NPO 法人グリーンスカウト大阪の活動支援を通じ, 社会への関わりを強めました。

### ■今後の課題

ジャンルにとらわれない充実した例会をベースに, 技術士各団体の多くの方々との交流もさらに深めたいと思います。なお今年度から技術士受験支援活動をスタートさせ, 会員の裾野を広げていきます。

### ■その他

近畿青年技術士懇談会は, 支部青年組織傘下ではない団体ですが, 日本技術士会の公益法人化への流れに合わせ, 近畿における青年組織としての役割を担えるよう今後検討していく予定です。

## 中国支部 青年技術士交流委員会



代表者 高木 周一(上下水道部門)

### ■今期の活動内容 (2009.6~2010.5)

- 6月 総会「規約改定、新委員選出」【参加者 13名】  
中・四国支部修習技術者支援セミナー協力
- 7月 5周年記念例会「青年技術士交流会の更なる発展に向けて」【53名】
- 8月 例会および勉強会「今年度の活動計画について」【11名】
- 9月 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力  
例会および勉強会「ネットワークサーバのハードウェアについて」【16名】
- 10月 例会および勉強会「配水工程と広島市の浄水方法の詳細」【14名】  
第36回 日韓技術士会議(韓国:仁川)  
第36回 技術士全国大会(仙台)  
中・四国支部修習技術者支援セミナー協力  
国際交流フェスティバル(ペアセロベ 2009)参加によるPR活動
- 11月 例会および勉強会「鞆地区の道路整備事業について」【11名】  
見学会「広島中央フライトロード、竹原まちなみ保存地区」【27名】  
島根県技術士会 産学交流会「おもしろ技術塾」(松江高専)
- 12月 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力(高松市出張セミナー)  
特別例会(勉強会)「鞆地区の道路整備事業について」【19名】  
～7部門の技術分野からの考察及び討論会～
- 1月 例会および勉強会「ダム建設に伴う県道付替工事について」【15名】
- 2月 例会および勉強会「森林の役割及び林業の現状について」【14名】  
中・四国支部技術士一次試験合格祝賀会でのPR活動
- 3月 例会および勉強会「ワードで作るホームページについて」【22名】
- 4月 例会および勉強会「色彩計画について」【16名】  
中・四国支部技術士二次試験合格祝賀会でのPR活動  
中・四国支部修習技術者支援セミナー協力
- 5月 例会および勉強会「耐震性能をもつ箱型擁壁」【19名】  
中国支部設立総会・記念式典  
見学会「鞆の浦、阿伏兎観音」【37名】

### ■今期の活動成果

- ・例会、勉強会、修習技術者支援セミナーを通じて会員の拡大および会の活性化を図る事ができた。
- ・島根県技術士会青年部との交流をはかることができた。・技術士の活動を一般市民へPRすることができた。

### ■今後の課題

- ・青年技術士交流委員の中核となっていたメンバーの卒業により、次世代を担う若手メンバーの発掘が最大の課題。
- ・その他では、活動の広域化や各県との連携(活動拠点が広島市中心が現状)を進めていく必要がある。

### ■その他、本部への意向等

今年は下関市で日韓技術士会議が開催されますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。

## 九州支部 青年技術士交流委員会

代表者 持田拓児(建設部門)



### ■今期の活動内容 (2009.6~2010.5)

#### ■今期のテーマ:【九州の次世代エネルギー】

- 1) 6月:「修習技術者のための直前対策講座」
- 2) 8月:「現役技術者が教える小学生のための夏休み自由研究教室」と題して、「福岡市アイランドシティ国際コンテナターミナル見学会」を実施し、巨大クレーンやコンテナ、300m を超える巨大コンテナ船など、国際物流に携わる仕事やスケールの大きさを一般の小学生に肌で体感してもらいました。
- 3) 8月:「太陽光発電設備の現状と未来」についての勉強会
- 4) 10月:「青年委員会の見学会 in 西九州」を1泊2日で実施し、①西部ガス佐世保工場、②ハウステンボス熱供給システム、③梅ヶ枝酒造、④無窮洞、オプション 1(ハウステンボス花火と光のショー)、⑤玄海原子力発電所、オプション 2(呼子朝市)などを見学し勉強しました。
- 5) 12月:「公開講演会」を実施し、「太陽光発電産業の展望」九州電力の陣内顧問と「水素エネルギー社会実現に向けた九州大学の取り組み」九州大学の佐々木教授に講和をいただきました。
- 6) 2月:2009年の年間活動報告と2010年のテーマ決定及び活動計画の立案を行いました。
- 7) 4月:「地球温暖化防止への取り組み」と題して、九州電力の原子力発電、地熱発電、風力・水力・火力発電、バイオマス発電などの取り組みについて勉強しました。

### ■今期の活動成果

年間を通して、充実した定例会を執行できたことは評価できます。また、九州支部の青年委員会では、楽しく、明るく、全員参加をモットーにしておりますので、この点は今年も運営委員会、定例会、懇親会の参加状況から判断して、評価できると考えます。また、活動状況を事あるごとに支部長に報告し、2009年は支部長や他の委員会の方々も巻き込んだ定例会も実施でき、今後も広く活動したいと考えています。

### ■今後の課題

JABEE 取得者への案内と委員会への参加要請や 20 代の更なる獲得が今後の課題です。支部も同様に活動を開始しているので、今年は連携して行動することを考えています。

### ■その他、本部への意向など

九州支部では、活動している委員会等にもっとお金が回るように「事業仕分け」を10月に実施すると支部長が話しています。これにより、我々の委員会から拡大委員会や全国大会に複数名参加できるようにしたいと考えています。



6月(修習技術者の直前講座)



8月(小学生の夏休み自由研究教室)



10月(見学会:ハウステンボスコジェネレーションシステム)



12月(公開講演会:九州大学-佐々木教授)

# 国際交流活動報告



# 国際交流活動報告

国際交流グループリーダー

松本正人

## 1. 国際交流活動の趣旨

アジア・太平洋地域を中心に諸外国の若手技術者と相互交流を図り、会員に対して国際交流及び研鑽の機会を提供することを目的に活動を実施した。

## 2. 平成 21 年度の活動内容

平成 21 年度は、昨年度から継続して日韓、CAFEO/YEAFEO、豪州、香港の 4 つを柱として、国際交流活動を行った。

### (1) 日韓技術士会議青年分科会、親善サッカー大会に協力(韓国 仁川/2009 年 10 月)

日韓技術士会議は、第 5 分科会および親善サッカー大会について、日韓技術士会議実行委員会への協力を実施した。

### (2) CAFEO/YEAFEO 派遣(シンガポール/2009 年 11 月)

CAFEO/YEAFEO は昨年に引続き青年技術者(3 名)をシンガポールに派遣した。派遣者は公募により選出されたが、派遣者が引続き青年委員会スタッフとして継続的に活動に参加しており、委員会活動への興味付けのためにも有効な企画であることが立証された。

### (3) 香港工程師学会(HKIE)との交流(平成 22 年 3 月)

香港の若手技術者との関係を強化するため、香港工程師学会(HKIE)の若手技術者 6 名に日本を訪問してもらい、意見交換及び文化交流を行った。

### (4) オーストラリア技術者協会との交流

日豪の若手技術者間の交流活性化と日豪技術士会間の関係強化を目的に、オーストラリア技術者協会主催の会議への委員派遣を予定していたが、豪州側の青年委員会の体制変更及び財政面での問題により、派遣時期を延期することとした。

### (5) 海外交流成果発表会を開催(平成 22 年 1 月)

海外交流の成果を広く共有するため発表会を開催した。

### (6) 危機管理体制の強化

海外派遣者の渡航中の危機管理体制を強化するため、派遣期間中の緊急連絡体制の文書化、派遣者のリームリーダーの選出、保険の加入、携帯電話の常時携帯等を規定した『国際交流に伴う技術者派遣に関するについて』を整備した。

### (7) 英文パンフレットの作成

青年委員会の活動をまとめた英文パンフレットを作成した。

## 3. 今後の活動・展開

日韓技術士会議においては、青年技術士の参加者数が増えて活動が活性化するよう、引続き広報活動に努める。

CAFEO/YEAFEO は、青年委員会の交流活動において唯一の多国間交流の場である。公募派遣を継続実施し、ASEAN 加盟国を中心として交流を深化させる。

オーストラリアとの相互訪問については、日豪青年技術士会間の交流のあり方について引続き検討する。香港との交流も互いに相手国を訪問して交流を深めるという活動スキームが定着しつつあり、今後はより広い会員層へフィードバックを意識した交流機会を提供していく。

上記のほか、さまざまな機会をとらえて国際交流チャンネル開拓の模索を続け、日本技術士会会員・準会員の国際交流の機会を数多く創出していけるよう努める。

行事名	<b>第5回 韓日技術士親善サッカー大会</b>
日時	2009年10月7日(水) 15:00~17:00
場所	韓国(仁川) 仁川国際空港公社 サッカー場
担当者: (○印:リーダー)	山中淳至○、仁田晃人
参加者数	約20名

### 1. 背景・目的

韓国(仁川)の仁川国際空港公社サッカー場で行われた韓日技術士親善サッカー大会はサッカーを通じてお互いの親睦を深めることを目的として開催され、今年で5回を数える。

過去の対戦で日本の勝利はなく、今回も打倒韓国チームを目標に各々練習を重ねるとともに、東京ではフットサル、北陸支部ではサッカーチームを結成し、継続的に練習を重ねてきた。

### 2. 内容

韓国及び日本両国の技術士会会長の挨拶をはじめ、数多くの来賓の方たちの挨拶の後、日本チームの挨拶(キャプテンの江川氏)、集合写真、両国技術士会会長のPK対決と盛大なセレモニーが行われた。試合はレギュラーマッチとフレンドリーマッチが行われ、レギュラーマッチは1対0、フレンドリーマッチは4対0と共に韓国チームの勝利で終わった。

試合終了後のウェルカムパーティーには日韓両国から合わせて100名近くが参加し盛大に行われた。試合でのMVPは本会議後の晩餐会で発表され、日本チームからは江川氏が選ばれた。

#### ■サッカー集合写真とウェルカムパーティーの様相



### 3. 成果と所感

試合時間は20分を4本。韓国チームは数ヶ月前から週1回の程度で合同練習を行っていたようで、しかも集合時間前に紅白戦を行うほど熱の入った状態。

レギュラーマッチでは、韓国チームはサイド攻撃を主体としつつ、中央ではダイレクトパスを基本とするなど組織的な攻撃で攻めてくるが、日本チームは全員が集中して決定的な場面はほとんど作らせない。日本も少ないチャンスで反撃を試みるが、GKの好守に阻まれ得点には至らず。結局、前半終了間際に一瞬の隙をつかれ、失点。後半もゴール前、約6mからのフリーキックを全員が体を張って防ぐなど、最後まで集中を切らさずに献身的にプレーができたが、最後まで1点が遠く、残念な結果に終わった。

フレンドリーマッチでも韓国チームの攻撃に日本チームは防戦一方となるも、DFやGKの好守で何度も決定機を防ぎ、点差はついたが、非常にいい試合であった。

試合終了後はお互い、握手を交わし、またパーティーでもお互いの親睦を深めることができた。サッカーを通じて、お互いが同じ時間を共有することで相手を理解しようとするきっかけとなり、今後も継続して開催することが重要であると考えます。

### 4. 今後の展開

次回の日韓技術士会議は山口県(下関市)で開催される。

技術士同士の交流を継続していくことは、サッカーだけに限ったことではないが、今回構築した人脈を活かしつつ、さらに新しい人脈や関係を築いていくべきと考える。

韓国チームの仲間たちに下関で再会できることを期待する。

行事名	YEAFEO 参加による ASEAN 若手技術者との交流
日時	2009 年 11 月 30 日(月)～12 月 2 日(水)
場所	Singapore Suntec City Hall
参加者	金子 淳一、関 卓史、齋藤 洋一郎
YEAFEO 加盟国	タイ、ブルネイ、カンボジア、ベトナム、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール（招聘国：日本、香港、オーストラリア）

## 1. 背景・目的

YEAFEO は、The ASEAN Federation of Engineering Organizations (AFEO) の中の若手技術者のコミュニティであり、ASEAN 諸国の若手技術者で構成される。日本を含む太平洋沿岸諸国も招聘国として参画しており、年々コミュニティは拡大している。

ASEAN の若手技術者との交流を目的として、平成 15 年より青年技術士交流実行委員会が募集した派遣者を YEAFEO の Boarding Meeting に参画している。

## 2. 活動内容

### 2.1 YEAFEO Board Meeting

Chairperson の議事進行により、各国のカントリーレポートが発表され、取り組みが紹介された。発表内容は各国様式が統一されているわけではなく、多様な形式での発表が行われていた。欠席国も複数見受けられたが、ミーティングの進行にあたり特に不都合と見られてはいなかった。

次に昨年の議事録確認、今回のミーティングでの各国への宿題事項割り当てが行われ、来年に向けた活動を整理していた。その後プレゼント交換を行い、各国の交流を深めた。



### 2.2 各種交流行事

YEAFEO/CAFEO メンバー合同で、シンガポールフライヤー見学(1 日目)、水道浄化施設の見学(3 日目)のほか、Welcome Dinner、Farewell Dinner などのイベントが用意されていた。ただし、それらの YEAFEO イベントよりも、2 日目の夜に YEAFEO メンバーとホーカーへ食事に行く、といった決められた行事以外のイベントが重要で、人脈を形成する重要な機会となった(このイベントだけに参加する者もいる)。また、開催前日に既に現地入りし、それぞれ交流を図るといった事も行われていた。

## 3 成果と所感

中堅以上の技術者で組織される CAFEO のコミュニティでは、技術的な成果の報告という傾向が強い。一方 YEAFEO は若手技術者で構成されるという事もあり、ミーティングやカンファレンスイベント以外の交流（観光や食事を共にするなど）に重点が置かれていた。

これはあまり意味の無い事と捉えられるかもしれないが、異国の人々と親密になるには、欠かせない事である。このような活動を通じ、ASEAN 諸国の人々と交流のパイプを築き、広げる事ができた。

## 4 今後の展開

YEAFEO は ASEAN 諸国の若手技術者と、一堂に会して交流できる貴重な機会である。今後もこの関係を継続強化していく事は意義のある事だと考える。今後はさらに有益な交流となるよう、

- 技術的な情報交換の充実（CAFEO 参加という選択肢も含む）
- YEAFEO メンバーとの合同企画（共同での他国の視察など）

のような試みを行っていききたい。



行事名	青年技術士交流実行委員会と香港工程師学会交流会
日時	2010年3月12日(金)～14日(日) 1日目(3/12):日本技術士会表敬訪問 2日目(3/13):テクニカル・カルチャーツアー、グループディスカッション・ポスターセッション、ウエルカムパーティー 3日目(3/14):観光ツアー&香港工程師学会主催 Dinner
担当:	武井、鈴木
背景・目的	青年層の国際交流の一環として、二国間交流による青年層の委員会活動の情報交換、青年層の国際意識向上を目的として、オーストラリアと香港と継続的に行っている。香港とは、平成20年度より毎年交流会を実施しており、今回は、3回目となる。
今後の展開	今後、より発展した交流を実行していくためには、単なる交流で終わるのではなく、その域を超えた両国におけるニーズを引き出し、かつ、そのニーズについての解決策等を話し合う機会を設けたら良いのではないかと思う。その結果、さらに充実した交流が図られることが期待できよう。

行事名	青年技術士交流実行委員会と香港工程師学会交流会 (交流1日目:日本技術士会 表敬訪問)
日時	2010年3月12日(金) 18:00～21:00
場所	日本技術士会 事務局 → 神谷町
出席者	◆日本技術士会 高木専務理事、西村常務理事、 ◆青年技術士交流実行委員会関係者 松本・田村 (鈴木・武井)※情報交換会から参加 ◆香港工程師学会 Leo・Annie・Kit・Agnes・Ivan・Tim
担当:	松本正人、田村裕美

## 1. 活動内容

### 1.1 表敬訪問

18:00に日本技術士会事務局にて集合し、高木専務理事、西村常務理事を表敬訪問した。名刺交換、香港からの記念品贈呈の後、写真撮影を行った。

その後、会議室にて翌日以降(3月13-14日)の予定とオリエンテーリングのルール説明などを行った。



表敬訪問



翌日活動内容の打ち合わせ

### 1.2 情報交換会

神谷町「串特急」にて、情報交換会を実施した。初日から打ち解けたムードを醸成して、翌日以降の交流がスムーズに行えるよう、良いアイスブレイキングの会となった。

## 2. 成果と所感

香港一行はパスモを使いこなし、当日午後には秋葉原散策などすでにいくつかの観光スポットを回っていたようで、東京メロを自由に乗りこなしているようであった。

行事名	<b>青年技術士交流実行委員会と香港工程師学会交流会 (交流2日目:テクニカル・カルチャーツアー、グループディスカッション・ポスターセッション、ウェルカムパーティー)</b>
日時	2010年3月13日(土) 9:00~21:00
場所	新宿→都内ツアー→田中山ビル9階会議室、葺出ビル5階C, D会議室
参加者	香港側6名、日本側ディスカッション12名、懇親会20名
担当:	テクニカル・カルチャーツアー:石関、藤井 プレゼンテーション:三留、松本(司会進行) グループディスカッション:三留、末廣、松本 ポスターセッション:仁田、寫田 冊子作成:末廣、田村 懇親会:北條、石井、末廣(司会進行) 会計:田村、横田

## 1. 活動内容

### 1. 1テクニカル・カルチャーツアー(9:00~15:30)

グループ1 (訪問場所:日本科学未来館、Sony Museum、浅草寺)

メンバー: Leo、Kit、寫田、石井、藤井、松本

グループ2 (訪問場所:明治神宮、原宿、上野、浅草寺)

メンバー: Annie、Agnes、武井、三留、金子倫花、三阪、関

グループ3 (訪問場所:東京都庁、新宿御苑、日本科学未来館)

メンバー: Ivan、Tim、鈴木、末廣、下田、村松、石関

### 1. 2 プレゼンテーション及びディスカッション(15:30~18:00)

#### 1. 2. 1. プレゼンテーション(香港:Leo、Kit、Annie、日本側:三留副委員長)

香港側から、いかにして若手エンジニアが仕事、委員会活動、プライベートでの両立を図るのか、若手エンジニアが自身の専門知識を社会貢献に利用するのかという点について、プレゼンを実施。日本側は、日本技術士会の概要、試験制度、若手エンジニアが自身の専門知識を社会貢献に利用するのかという点について、プレゼンを行った。これら詳細は、以下のグループディスカッションで意見交換を行った。

#### 1. 2. 2. グループディスカッション及びポスターセッション

グループ A テーマ:How young engineers balance work, committee activities and private life

グループ B テーマ:How young engineers can use their professional knowledge to contribute to society

若手層は多忙を極めるため活動に参加する時間が取りにくい、などの課題に対し、双方の事例から解決策を学んだ。その後、ディスカッションを通じてベスト・プラクティスを模索した。また、「青年技術士がどのようにして専門的知識を用いて社会に貢献できるか」についてもテーマとすることにした。

#### ポスターセッション

日本側の青年委員会のスタッフ 18 名が各自業務内容を含めたポスター(A3版)を作成し、展示を行った。香港工程師学会の皆様に興味を持っていただけ、作成者の了承が得られる展示の電子ファイルを香港側に送付することになった。

### 1. 3. ウェルカムパーティー(18:00~21:00)

## 2. 成果と所感

オリエンテーリングの振り返りとして、もう少しスポットを絞るべきだったと考えている。23 区内といえどもエリアが広く、各スポットの滞在時間を十分に確保するような工程設定が困難だったためである。しかし、香港メンバーが希望したスポットを回ることができた点についてはよかったと考えている。

国際交流では、英語を用いてのディスカッションとなる。香港側は幼少の頃より英語教育がされ、大学でのテキストはもちろん、講義も英語で行われており、日本側には言語的なハンデが有るように感じた。しかしながら、日本の青年層の上限は45歳と香港側と比べると10年高い。英語力を高めていくのも必要であるが、経験を活かし言語のハンデを補うことも考えられる。

行事名	<b>青年技術士交流実行委員会と香港工程師学会交流会 (交流3日目:観光ツアー&amp;香港工程師学会主催 Dinner)</b>
日時	2010年3月14日(日) 13:30~21:00
場所	新宿→銀座→皇居→東京タワー→新宿
参加者	香港側6名、日本側9名
担当:	根本 英俊・仁田晃人

## 1. 活動内容

### 1.1 観光ツアー

#### 1.1.1 銀座ミツバチプロジェクトを知る

香港工程師学会青年の今年度活動テーマが「サステナビリティ」であるため、都会(ビル)と自然環境(ミツバチ)の共生プロジェクトとして、銀座ミツバチプロジェクトを紹介した。

ミツバチの巣箱がある紙パルプ会館と蜜の収集先のひとつである NTT 京橋屋上ビーガーデンは日曜日は見学を受け入れていないため、事前に取材とビデオ撮影に協力いただいた。当日は銀座(紙パルプ会館)から皇居付近(蜜の収集先)まで歩くことでミツバチの飛行距離を体感した。また、途中の建設現場や東京駅には小型風力発電や太陽光発電の設備があり、これらも香港側の興味を大いに惹いていた。東京駅近辺の会議室にて、撮影したビデオを鑑賞し、補足説明を行った後、香港側から環境に関する3つの取り組みについてプレゼンがあった。以下はプレゼン内容である。

- (1) Leo 氏による概要説明(香港での環境対策の重要性紹介)
- (2) Kit 氏からオフィス等での電力省エネ活動の取り組み
- (3) Annie 氏から海水空調システムの紹介
- (4) Ivan 氏から風力発電に関する取り組み

#### 1.1.2 皇居散策

散策しながら皇居に関する歴史や施設の説明を行った。配布された資料は甲斐九州支部長にご協力をいただいております、青年層では知りえない内容が盛り沢山であり国際交流を実施する時には英語力もさることながら、自国について知識を有しておくことの大切さも実感した。

ここでは、皇居及び丸ビル等を背景にそれぞれ全体写真を撮り、歴史と近代建築が共存することが分かる構図となった。

#### 1.1.3 東京タワー

香港側の用意した Dinner まで時間の余裕があったため、皇居からも近い東京タワーに行った。東京タワーに着く直前福島で発生した地震のため、東京タワー展望台へのエレベータは止まっており、長蛇の列が出来ていたため、お土産選びと東京タワーの美しいライティング撮影を楽しんだ。また、新東京タワー建設についても説明することができた。

### 1.2 香港工程師学会主催 Dinner

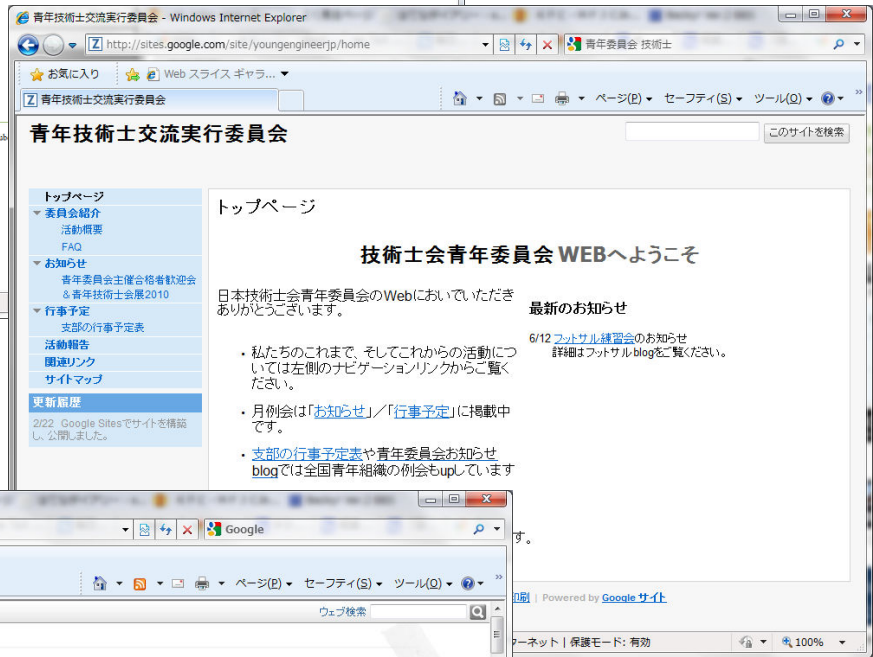
かに道楽 新宿駅前店にて会食した。3 日間におよぶ交流を締めくくるには、ふさわしい会場であった。この会場を予約していただいた香港工程師学会の皆様には深く感謝の意を表したい。

## 2. 成果と所感

日本(青年技術士交流実行委員会)と香港(香港工程師学会)の技術者による3日に及ぶ交流は非常に有意義であったものと振り返る。この報告書を書いている私自身、最終日(3月14日)のみの参加であったが、香港工程師学会のみなさんのフレンドリーな対応に、親近感を覚えた。今回の交流を通じ両国における親善強化が図られたように感じる。技術のグローバル化は、めまぐるしい勢いで進んでいる。そのため、“技術”は国境を越え、交流は必然となる。その意味を勘案しても、今回の交流は一定の成果を挙げたと考える。



# その他活動報告



# ITグループ活動報告

IT グループリーダー 石関 学

## 1. メンバー

石井、根本、中嶋、鈴木、藤井、横井、石関

## 2. 目的

ITグループのミッションは、青年委員会活動を円滑にするために、IT基盤を活用・整備することであった。

## 3. 今期の活動と今後の展開

### ① 別館の整備

#### (1) 成果

- ・ 写真データの閲覧機能を、別館に追加した。
- ・ 別館の運用マニュアルとして、要所を記載したドキュメントを作成した。サーバーの契約や別館の運営、メーリングリストも含めたアカウント管理についてまとめた。しかし、これらを用いた運用は来期以降となる。

#### (2) 今後の展開

- ・ 目指すべきは、メンバー全員が、IT 知識に依存せずに管理・運営をできる体系である。今後、継続した別館の運営と、機能の改善を進めていく必要がある。今期作成したドキュメントについてもブラッシュアップしていく必要がある。

### ② 支部交流活動

#### (1) 成果

- ・ 別館と並行して交流ページを作成したが、有効な使い方までの提案できなかった。
- ・ テクノツーリズムについては、各イベントにて訪れたスポットについて事後的に追加するという活動となった。

#### (2) 今後の展開

- ・ 支部交流とITを結び付けてしまい、具体的な手段から入ってしまったことで、有効なサービスの提供をすることが難しかった。
- ・ 今後支部交流グループと協議し、IT グループとしては、支部交流活動に必要な手段提供というスタンスで活動を進めていくべきと考える。

### ③ ネットミーティング

#### (1) 成果

- ・ スカイプの性能的な限界を明確化した。
  - 同時に接続してスムーズに通信できるスポットは3箇所まで
  - 上記はPCのスペックに依存する
  - 1対1のスポット通信だと、カメラの画像まで大変スムーズに閲覧できる
- ・ スカイプの代替で、公衆電話回線を使用した会議手段も検討したが、実機検証までには至らなかった。

#### (2) 今後の展開

- ・ 日本技術士会でテレビ会議システムの導入を計画しているとのこと。この活用方法を把握し、委員会内に提案すべきと考えている。

以上

## 広報グループ報告報告

広報グループリーダー 畠田泰彦

### 1. グループメンバー

畠田、横田、北條、藤井、渡邊(弘)、末廣、渡邊(春)、

### 2. 目的と主旨

・各種の広報媒体を通じた例会、委員会活動の広報の実施

### 3. 今期の活動と成果

#### 1) 同報メール

行事開催時などに技術士会会員向けにメールを発信した。2009/7～2010/6 で 15 通発信した。

#### 2) 月刊 PE のイベント紹介への投稿

月刊技術士 (PE) および技術士会ホームページのイベント紹介欄に告知を掲載し、主催行事の広報を実施した。

#### 3) ホームページ作成

Google Sites のサービスを利用して、新たに青年委員会 Web サイトを構築した。これにより、特別なソフトがなくても編集作業ができるようになり、アクセス数の解析も可能となった。内容の大きな更新は行うことができなかった。

#### 4) ブログ

行事の開催告知を行ったほか、4 月特別例会に際しては、メイキングブログとして、準備内容をほぼ 1 日 1 回更新した。

通常は、ホームページよりもブログのほうが多く、利用者の動向に合わせた広報活動を展開していく必要があると考えられた。

#### 5) 年鑑

活動年鑑の原稿依頼、編集作業を実施した。日本技術士会の部会、理事会、支部、事務局、研修委員会のほか、交流のあった日本技術士会以外の関係者にも配布した。

#### 6) イベント時の各種広報活動

2010 年 1 月の 1 次試験合格者歓迎会・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、3 種類のポスター展示 (アバターによるメンバー紹介、YEAFFEO16 ポスター、青年組織年表)、各報告書展示、委員会紹介及び全国大会のチラシ配布を実施した。

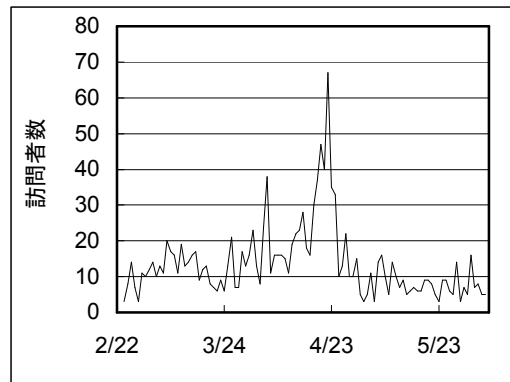


図 2010 年 2 月～5 月の青年委員会サイト  
来訪者数の推移

### 4. 今後の活動・展開

- ・ホームページ・ブログなどからの情報発信頻度を増やしていきたい。
- ・青年委員会のホームページに「技術士」の紹介やロールモデルがあったほうがよいとの意見をいただいた。ホームページから発信する内容について検討を進めていきたい
- ・広報媒体の位置づけを明確にし、媒体ごとの活用方法を見直していきたい。

青年技術士交流実行委員会 スタッフ紹介

青年技術士交流実行委員会 名簿

No	役職	部門	氏名
1	委員	機械	中嶋 秀朗
2	委員	機械	中垣 隆雄
3	委員	機械(修習)	山地 真吾
4	委員	機械	関 卓史
5	委員	電気電子	仁田 晃人
6	委員	電気電子(修習)	石関 学
7	委員	電気電子	鷹尾伏 亮
8	委員	電気電子	横井 弘文
9	委員	化学、総監	根本 英俊
10	委員	金属	高橋 政治
11	委員長	建設	田村 裕美
12	委員	建設、総監	松本 正人
13	委員	上下水道	嵐田 泰彦
14	委員	衛生工学	横田 幸利
15	委員	水産	北條 健一
16	副委員長	経営工学	武井 遼
17	委員	経営工学(修習)	鈴木 史人
18	委員	情報工学	石井 利教
19	委員	情報工学	金子 淳一
20	副委員長	生物工学	三留 規誉
21	委員	環境、建設、衛生工学、総監	松嶋 健太
22	委員	原子力・放射線	山中 淳至
23	支部委員(北海道)	建設	樋詰 透
24	支部委員(東北)	建設、農業	開米 浩久
25	支部委員(北陸)	建設	大塚 直吉
26	支部委員(中部)	建設、環境	平松 明子
27	支部委員(中・四国)	上下水道、総監	高木 周一
28	支部委員(九州)	建設	持田 拓児
29	委員補佐	経営工学	宮本 忠博
30	委員補佐	建設、総監	渡邊 弘毅
31	委員補佐	化学(修習)、JABEE	渡辺 春菜
32	委員補佐	化学(修習)	平原 賢志
33	委員補佐	化学(修習)、JABEE	末廣 多恵子
34	委員補佐	情報工学(修習)	藤井 佳直
35	委員補佐	機械(修習)、JABEE	松永 温史

2010/6/26現在